

第15回 全道造形教育研究大会



1965.7.28~29 大会場 稚内市立稚内南中学校

大会日程

	8.30	9.20	9.30	10.00	12.00	13.00	16.00	18.00
第1日(28日)	受付	公開学習	開会式	パネル ディスカッション	昼食 レクリエーション	分科 会 会	パ ー テ ー (希 望 者)	
第2日(29日)	受付	綜 合 部 会	分 科 部 会	会 会	昼 食	講 演	部 会 報 告	閉 会 式 観 光
	8.30	9.00		12.00	13.00	14.50	15.00	15.30 17.30

研究主題の経過と開催地

- 情操教育振興の一環として本道図工教育の進展を図るため。
 ① 各地に於ける図工教育の実態に立った共通的問題の究明。
 ② 全道小学、中学、高校、大学教員の団結を図り組織の結成をはかる。
 2 美術教育の新思潮である創造主義美術教育の諸問題について。
 3 美術教育の指導とは何か。
 4 図画工作教育実践上の諸問題について。
 5 図画工作教育における学習指導上の問題点の解決。
 6 造形教育において作り出す力を養うにはどうしたらよいか。
 7 のぞましい造形教育における具体的諸問題について。
 8 図画工作学習によって児童生徒の人間性がどのように培われるか。
 ……………現場の実践を通して……………
 9 新段階における造形教育のあり方。
 10 本道における造形教育の実践を通して今後のあり方を見出そう。
 11 子どもたちの芸術性を育てるために私たちは何を与え、何をすべきか。
 12 子どもが生活をみつめて造形的に高まっていくために
 私たちはどうしたらよいか。
 13 子どもが生活をみつめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか。
 ① 幼小中高のつながりに立ち学習内容の系統づけをしよう。
 ② デザイン、工作領域のたちおくれについて考えよう。
 ③ 子どもの生活と造形活動のつながりを作品を通して考えよう。
 14 子どもの造形能力とは何か。
 ① 発達段階に立つ学習内容のたしかめ
 ② 子どものデザインとは何か

北海道造形教育連盟

- (26年) 札幌市
 (27年) 札幌市
 (28年) 旭川市
 (29年) 函館市
 (30年) 釧路市
 (31年) 札幌市
 (32年) 室蘭市
 (33年) 小樽市
 (34年) 帯広市
 (35年) 網走市
 (36年) 滝川市
 (37年) 名寄市
 (38年) 余市町
 (39年) 札幌市

目次

大会日程 研究主題の経過と開催地	分科会	18
研究要項	部会	30
公開授業一覧並授業案	講演	34
開会式	閉会式	16
パネルディスカッション		16

第15回全道造形教育研究大会

研究要項

1. 研究主題

子どもの造形能力とは何か。

- 教材の面からのたしかめ

設定の理由

- 昨年は子どもの造形能力について一応体系的把握を中心として研究を進め、これを「造形能力体系表」としてまとめることができた。しかしこれはまだ仮設の段階であるため内容的にも不十分であり大方の疑義も多いのが実情といえよう。

- したがって必然的に本年度は体系表の裏づけ研究が要請されてくるわけである。

子どもの造形能力を開発する場はあくまで具体的指導にあるとすれば、教材の設定そのものに造形能力の伸張、開発の期待がなければ十分な効果をあげることができない。さらに教材を通しての内容や、指導の実践など、きめ細かく能力の開発を行ない児童生徒の作品の中から明らかに実証したいと願っている。

- この研究は第二次連盟のカリキュラムの伏線となるものである。

2. 大会運営の態度

- 全道大会も回を重ねて15回を迎えることができた。これまでの積み上げの上に、今年はさらに将来への確固たる歩調を整える意味で、従来ややもすれば理論上の研究大会であったことを反省し、実践研究を基盤とした実質的な研究に終始したいと考えている。

- したがって問題意識を的確にし、討議の方向や内容においても、各地区の実践を通して実証し、中間的なまとめを行ない、今後の研究の進め方を適切に処理するようこの大会の機能を有機的に発揮したい。

3. 研究授業

小学校6、中学校2、高校1、幼稚園1、盲学校1、特殊1、単複1

- 稚内市あげての公開授業である。日常の造形教育の素直な姿をごらん下さい。

特別えらんで公開授業するわけではなく、また、選ぶことのできない現状である。背のびすることなく普段のまま、いつでも、どこでもやれる授業をしたいと考えている。

- 授業について

・主題にそった計画

- ・授業の中に子どもの造形能力の伸びを期待する。
- ・大会の問題提起の素材を提供する。
- ・見せる授業でなく日常のまま。
- ・授業について素材として扱って頂きたい。

4. パネル、ディスカッション

主題

子どもの造形能力をどう捉え、どのようにのびたらいいか。

このディスカッションを通して、主題の意味するものを含みながらその問題点と解決の道すじを明確にしてゆきたい。

- 討議の柱

- ・われわれは造形教育を通じて子どもにどんな能力をつけるか。
- ・子どもの造形能力を伸ばすためにわれわれはどうしなければならぬか。
- ・こどもの造形能力をのばすための問題点。

5. 分科会

主題

子どもの造形能力とは何か

—教材の面からのたしかめ—

- 分科会の構成は描画、版画、工作、彫塑、デザイン、鑑賞とし、心象、観察、飾る、伝える、使う、動かないもの、動くもの——分野に分けていない。

- 幼、高は部会として同時に開催する

- 討議の素材として各地区の実践研究記録と会員が持参する作品を通して実証研究してゆきたい。

6. 部会

- それぞれの部会テーマにしたがって研究を進める。

7. 綜合部会

- この部会は各分科会の討議内容を総合的に検討し、討議の成果を収約し、問題点を明確にする任務をもつ。

- この部会は各分科会の討議の内容を持寄る2名づつの代表で構成する。

- その日の討議の成果を収約して翌日全体に発表する。

第1日 7月28日(水)

公開授業 (8.30~9.20)

学年	領域	題材	授業者	学年	領域	題材	授業者
幼稚園	工作	さかなつり	稚内鈴蘭幼稚園 須藤礼子 高山祐子, 渡辺紀子	中2	描画	ガラス絵	稚内中学校 金丸雄司
小1	工作	つるすかざり	稚内南小学校 加藤広志	中3	彫塑	共同製作 野外彫刻	稚内南中学校 木立博康
小2	彫塑	ねんどの どうぶつ	稚内北小学校 大谷伸也	高校	デザイン	表紙のデザイン	稚内高等学校 中村昭夫
小2	デザイン	ならべもよう	稚内東小学校 川原一成	小456	彫塑	トーテムポール	東浦小学校 阿部正
小4	デザイン	わたしたちの町	稚内北小学校 関忠夫	特殊	工作	一輪ざしつくり	稚内小学校 野田誠
小5	彫塑	楽しい顔	稚内小学校 松川仁	盲校	彫塑	ねんどでつくる	稚内盲学校 山田光幸
小6	工作	丈夫なくみたて	稚内南小学校 藤井常雄				

学習指導案

稚内鈴蘭幼稚園 1年保育

男23名 女16名

指導者 須藤礼子

高山裕子

渡辺紀子

1. 題材 魚つり

2. 題材観

描画やせいさくの活動は子どもの強い興味の対象である。
 ◦子どもたちの技術的な面(色をぬる。ハサミを使うなど)では1年保育児と年長2年保育児との差はほとんどないが、表現の内容や表現の意欲には、まだ相当の差がみられる。のびのびとした表現や、身近なものの変化に目を向けさせて、あらたな感動をもたせるように重点をおかなければならないと思う。したがって本題材においては「素材のもてあそび」という状態から「構成的な活動」に発展させ、魚つりの遊びをとおして季節感を満喫し夏の生活をたのしむようにさせたい。

3. 指導のねらい

- 簡単な遊びの用具を作ったり、遊んだりすることによって、成功感や満足感を味わい、作る意欲を高めるようにする。
- 材料をじょうずにつかう。
- かいたり、作ったりしたものを、遊びに用いたり遊びに必要なものをこしらえたりする。

4. 指導計画

- 紙袋で魚をつくる 1時間(本時)

5. 本時の指導

- ねらい 模倣的なものにならないように、自分なりに考え出したきれいな魚をつくる。
- 準備 子ども、紙袋(菓子袋)古新聞紙、えのぐ、ふで、輪ゴム、ゼムピン
- 教師 つり竿、セロテープ

6. 本時の展開

要項	学習内容	指導上の留意点
導入	◦自由あそび ◦おはなしをきく ◦どんな魚を作るか発表させる ◦発表した中から、作り方を考える	◦魚をつくる意欲をもたせる
制作	◦袋に魚の色をぬる ◦新聞紙をまるめて袋につめる ◦頭、胴、尾を区別する	◦倒れないように工夫する ◦えのぐの使い方に気をつける ◦あまり中味が重くならないようにする
遊び	◦池におよがす ◦自分の魚を、つり竿を使って魚つくり遊びに興じる	◦口の部分にゼムピンをつける ◦あとしまつ

学習指導案

稚内市立稚内南小学校 1年
男 23名 女 20名

指導者 加藤 広志

1. 題材 つるすかざり (たなばた)

2. 題材観

四角形の色紙を二つに折れば、二枚びようぶの形になり、さらに二つに折れば、四角柱のようになる。三つでは三角柱に、まるく曲げれば円柱になる。

いろいろに折ったものを はさみで切れば多種類の形が生れてくる。このような表現活動を、自由にやらせてきれいな飾りを作らせたい。

昔からよく作られている紙くさりやたんざくにとらわれず、むしろ自由にすきなものを作らせるようにする。

色紙を自由にトレーニング的に工作していくうちに自然にできてくる形を大切にしたい。

わたしたちの祖先が残してくれた季節的な行事への関心を深めるだけにとどまらず、色彩の変化、大小の変化かたよらないようなさげ方を配慮させみんなのかざりがたくさんつくると、きれいになることをわからせたい。

3. 指導のねらい

- 画用紙や色紙などで、たなばたかざりをくふうさせ、飾る楽しさを味わせる。
- 季節的な行事への関心を深めさせる。
- みんないっしょに作業する楽しさを経験させる。

4. 指導計画

- たなばたまつりについて話し合い、飾りを作る興味をおこさせ制作させる…………… 1時間
- たなばたまつりの飾りを制作させる…………… 1時間
- 完成したかざりをつりさげて楽しませる…………… 1時間 (本時)

5. 本時の指導

- **ねらい** ・みんなでいっしょに作業する楽しさを経験させる。
- ・飾りかたをくふうさせる。
- **準備** (児童) 色紙、中薄紙、のり、はさみ、ひも
- (教師) 飾る用紙

6. 本時の展開

要 項	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
導 入	・学習についての話し合い。 各自の作業を考える。	・学習内容ははっきりさせる
展 開	・作業をする。	・いろいろな形、色紙のりあわせをくふうさせる
	・作品をつりさげる。	・同じ形や色のものが、かたよらないように配置に気をつけさせる
整 理	・どこを くふうしてつくったか話し合う。 ・みんなで見え楽しむ。 ・あとしまつ	・くふうした児童や、いっしょうけんめいした児童を紹介する。 ・完成のよるこびを味わせる。

学習指導案

稚内市立稚内北小学校 2年
男 24名 女 22名

指導者 大谷 伸也

1. 題材 「粘土の動物」

2. 題材観

人形や船・飛行機などの絵を描くことのやや好きな児童が4～5名いる程度で、図工に対する意欲においては平凡な学級である。

粘土いじりは、子どもたちの、もっとも好む造形活動の一つである。一年生の時は半立体的な表現が多かったが、本題材は立体表現である。それで粘土板の上に与えられた一かたまりの粘土をまるめたり、ひねったり、のぼしたり、つけたしたりして表現しようとする欲求を十分に満足させたい。身近にいる動物、見てきたことのある動物、親しみある動物などを作らせ立体的な表現に興味を深めさせる。

3. 指導のねらい

- 粘土で、身近にいる動物、見てきた動物、親しみのある動物などの形や特徴を工夫して作らせ、立体的な表現力を養う。
- 粘土という親しみのある材料を使って、表現の楽しさを味わわせることと、取扱いになれる。

4. 指導計画

- 粘土の取扱いについて話し合いする……………
 - 粘土で動物を表現し話し合う……………
- 2時間 (本時 $\frac{1}{2}$)

5. 本時の指導

- **ねらい** ・粘土で動物の形や特徴を工夫して作り話し合う。
- **準備** ・粘土・粘土板・新聞紙その他。

6. 本時の展開

要 項	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
導 入	◦ 本時のめあてについて話しあう	◦ 教科書を見ながら話し合いさせる
展 開	◦ 各自の制作する動物について話し合う	◦ 本時のめあてをはっきりさせる
	◦ 自分の考えた動物の特徴をとらえ制作する	◦ 大きな部分を作り、だんだん細部を作るようにさせる
		◦ つまみだしたり、つけくわえたりする方法を理解させる
		◦ 机間巡視で作れない子どもを指導し、また立てられない子どもに補助材をあたえる
整 理	◦ でき上がった作品について話し合う	◦ よくいった点、困難点も取り上げて話し合わせる
	◦ あとしまつ	◦ あとかたづけをきちんとさせる

学 習 指 導 案

稚内市稚内東小学校 2年
男 22名 女 23名

指導者 川原 一成

1. 題 材 ならべもよう

2. 題 材 観

- こどもたちの身近な生活には、いろいろな生きものに接し、強い興味と愛着をもっている。また、それを表現する喜びは、大きいものと思われる。
- この時期のこどもに魚・鳥・虫・動物の形等、興味のあるものを選んで、絵をかくような気持で、はり絵をのびのびと楽しく行なわせたい。
- 図工科の学習には関心があり、また意欲的に楽しみながら創作している。しかし中にはテーマを与えても、その中で工夫することに慣れてきたこどもや、他のこどもの表現を気にし、考えが定着しないこともみられる。
- はり絵は平面構成をすることが主となるので、配色のおもしろさ、美しさ等に感心をもたせ、さらに経験を通して、リズムやバランスに気づき、構成する能力を養いたい。

3. 指導のねらい

- 身近な生活の中から、生きものを取材し、その形の美しさに気づかせる。
- 自由な表現を通して、色・形・材質の組み合わせに対する経験を豊かにし、大小のバランスやリズムを知る。

4. 指導計画

- 発想を豊かにする話し合いと計画……………1時間
 - 形を作ってならべて見る……………)
 - もようを作る……………)
- 2時間(本時%)

5. 本時の指導

- ねらい ◦ 大小のバランス・うごき・色のつり合いを工夫し、自由なもようにする。
- 準備 ◦ 色画用紙・色紙・はさみ・糊・わりばし・墨汁・皿

6. 本時の展開

要 項	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
導 入	◦ 学習のめあてをつかむ。	◦ イメージを定着させる。
展 開	◦ 計画通りにはっていく。	◦ 大小の形をならべ、配色に工夫をさせ、まとまりのあるもようを発展させる。
	◦ 補足するところを墨でかく。	◦ 細かい部分にこだわらず、のびのびと創作させる。
整 理	◦ 作品を展示して、色や形やならべ方、動きのある表現に工夫されているか話し合う。	◦ よくいった点、困難点について話し合う。
	◦ あとしまつ。	◦ あとかたづけがきちんとできたか。

学 習 指 導 案

稚内市立稚内北小学校 4年
男 21名 女 28名

指導者 関 忠 夫

1. 題 材 わたしたちの町

2. 題 材 観

- 子どもたちは、いままでに社会科の学習をとおして自分たちの町を、その面では理解している。特に3年生のときは絵地図の作成にもあたっているので町全体が経済的社会的に一定の役割をもってでき上がっていることは十分とまでいかなくとも理解していると思う。そこで将来の稚内市の発展を予想して港湾地域を中心にとらえ立体的に子どもたちの夢を表現させることによって造形的創作性を養っていききたい。
- また、この時期の子どもたちは、社会的集団生活経験のある程度つんできているので、共通の目的に向って仕事の分担や手順を相談させ協力し合って一つの作品を作り上げる仕事をとおしてよりよい人間関係を育てたい。

3. 指導のねらい

- 将来の稚内市を予想し子どもの夢を、立体構成をとおして表現させる。
- 建物その他を、特徴をつかんだ単純な形で表わす。
- 全体的なまとめ方や構成のくふうをさせる。
- 共同制作をする態度を養う。

4. 指導計画

- 計画を立てる……………1時
- 表現活動をする……………3時 本時%

5. 本時の指導

- ねらい ◦ 全体としての配色やまとめ方を考えさせる。
- 道路や線路などにもくふうさせる。
- 準備 ◦ 各種廃材・廃物、ベニヤ板、絵の具、方眼厚紙、接着材、ハサミその他

6. 本時の展開

要 項	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
導 入	◦ 本時の学習について話し合う	◦ 本時のめあてをはっきりさせる
展 開	◦ 仕上げの心がまえ	◦ 手順よく作業をすすめるようにしむける
	◦ グループ制作	◦ 色彩配置にくふうさせる
	◦ 計画にしたがって配置する	
	◦ ぬりのこしているものに着色する	
整 理	◦ 自分たちのくふうしたこと、注意したことについて話し合う	◦ 話し合いがスムーズにいくようにしむける
	◦ みんなでつくって でき上がったよるこびを話し合う	

学習指導案

稚内市立稚内小学校 5年
男 26名 女 17名
指導者 松川 仁

1. 題材 美しい顔

2. 題材観

図工科学習において、思うままに粘土をこねる仕事や粘土をつけていく仕事などは低学年からしばしば経験している。

しかし、自分で粘土や石こうその他の材料で、彫刻できる大きさに表現し、それをカービングしていくという立体感と量感をともなった彫刻は、未経験であるので一度これを指導して素材に対する認識を広めるとともに彫刻に対する興味を深めさせたい。

3. 指導のねらい

- 自分の持ってきた材料を使い、その材料の特質を生かしたボリュームのあるものをカービングすることによって、立体に対する感覚を練る。
- 制作を通して、彫刻についての技法を理解させる。
- 彫刻に対する鑑賞力をたかめる。

4. 指導計画

- 計画と準備……………1時
- 芯作りをし、大まかに表現する……………1時
- 細部にわたりカービングする……………2時 本時4
- さらに手入れをし、鑑賞し合う……………1時

5. 本時の指導

- ねらい** ○素材と道具の性質を考えながら、物をカービングすることによって立体的なものを表現する技能と感覚を練る。
○こつこつと物をカービングする作業を通して、誠実さを養う。
- 準備** ○石こう・板・わら・糸・彫刻刀・竹べら・小刀・ナイロンふろしき・新聞紙・前かけ

6. 本時の展開

要 項	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
導 入	○本時の学習内容を把握する	○本時の内容を理解させて、どのように表現するかをはっきりさせる ○学習の順序を考えさせる
展 開	○彫刻する	○用具の使用にあたって、外傷がないようにさせる ○平面的にならないように、なるべく深くカービングさせる ○特徴を考えながら、細部にわたり表現させる ○立体の美しさを感じながら作っていくように指導助言する
整 理	○自分の工夫したところや、困難点について話し合う ○あと仕末をする	○友だちの作品のよい点を見つけて、はげまし合う

学習指導案

稚内市立稚内南小学校 6年
男 24名 女 21名
指導者 藤井 常雄

1. 題材 じょうぶな組み立て —単位形の組み合わせ—

2. 題材観

1つの単位形を考え、その特性を利用して数多く組み合わせることにより、新しい構造の形が生まれることに気づかせ、ビルや橋りょう、道路などの建設にも使用されていることを理解させる。

単位形をもとにしてできる構造をくふうさせユニット構成による構造のおもしろさに気づかせる。

このような構成練習は材料的発想にまつところが大きいので、材料の性質や可能性について考えさせ、組み立てをくふうさせたい。

3. 指導のねらい

- 単位形の組み合わせによる構造をくふうさせる。
- 突っばる力と引っぱる力を利用して、じょうぶな構造をくふうさせる。
- この構造を応用して立体的の作品を作らせ、構成力を養う。

4. 指導計画

- 教科書の例の単位形を作ってみて、材料の可能性を考える。新しい単位形の制作 1時間
- 前時の継続作業 1時間
- 単位形の組み立てによって、立体的の作品の制作 1時間(本時)
- 前時の継続作業と整理・反省 1時間

5. 本時の指導

- ねらい** ○突っばる力と引っぱる力を利用して、じょうぶな構造をくふうさせる。
- 準備** ○竹ひご・輪ゴム・画用紙・糸・ヒートン・セロハン・ベニヤ板・角材はさみ・接着剤・ナイフ

6. 本時の展開

要 項	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
導 入	○本時の学習内容を把握する。	○作品は30cm以内
展 開	○新しい単位形の組み立ての予想について話し合いをする。	○質問回答は机間巡視で行なう。
展 開	○制作する	○組み立てにあたり、となりどうし手助けさせるようにする。
整 理	○計画どおりに進んでいるか話し合いをする。	○おもに引っぱる力・突っばる力(じょうぶさ・補強等)について話し合いさせる。

学習指導案

稚内市立稚内中学校 2年

男 23名 女 21名

指導者 金丸雄司

1. 題材 ガラス絵

2. 題材観

生徒自身日常生活において美しい作品に触れる機会が少なく、自から進んで描くということもない。生活環境はいたって粗雑で授業においても自ら熱中して描く生徒はあまり見られない。従って、描画の楽しさ面白さが半減されている状態で、嫌いであるが義務的に描いているのが実状である。

日常使用している画用紙でなく、ガラスという新しい素材を与え、そこに美しい色彩が表現できたら、興味と関心が湧くであろうと思われる。

本題材で、絵画の美しさが再認識され描画に対する意欲がもたれば幸いである。

3. 指導のねらい

- ・新しい材質を使うことによって描画材料に対する興味を深めさせると共に描画の能力を高めさせる。
- ・混色の技術の理解と習熟を図るようにさせる。
- ・ガラスを使用した時のえのぐの美しさ、輝きを発見させるようにしたい。

4. 指導計画

- ・風景の色彩スケッチ……………1時間
- ・スケッチをもとにした下絵制作……………1時間
- ・ガラス絵制作……………1時間(本時5/6)
- ・額縁づくり……………1時間

5. 本時の指導

- ・ねらい
 - 混色に慣れる。
 - ガラス絵の制作によって描画に対する興味を深め、えのぐの美しさを発見させる。
- ・準備
 - 生徒 水彩用具、マゼック、下絵、布または脱脂綿。
 - 教師 ガラス、額縁、参考作品、水彩用具。

6. 本時の展開

要 項	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
導 入	・本時の学習内容とねらいをつかむ	・ガラスと画用紙の相違を理解させる
展 開	・下絵をガラスに写す ・彩色する ・下絵の線を消す	・下絵の線にとらわれることなく彩色させる ・水をあまり使わず厚塗りする
整 理	・鑑賞	・下絵とガラス絵とを比較させる

学習指導案

稚内市立稚内南中学校 3年

男 21名 女 21名

指導者 木立博康

1. 題材 野外彫刻

2. 題材観

中学生高学年一般にみられるように、美術への関心は決してある学級とはいえない。

男子は比較的に無口の生徒が多く、また一般に男子より女子の方が何ごとにおいても活発である。しかし、地域的にも、学年を考へても教室などにとじこもりがちな生徒が多い。このような生徒を屋外に出して、その自然の太陽の下で思いきり新しい材料に取り組みたい。セメントについては、多くの建築物やその他で、よく生徒は知ってはいるが、完成されたもの以外に、直接その材質に触れることはあまりないと思われる。

したがって触れることにより、その材質感を体験させ理解させたい。

セメントは共同制作の題材に適し、完成後野外に飾っても雨露による損害がなく、記念像として、生徒たちの気持を母校に残すことができる。

しかし初めての試みであるので興味や関心も大いにあると思われるが、失敗も多く出ると考えられる。しかしそれなりに新しい体験が生徒にうえつけられれば幸いと思う。

3. 指導のねらい

- ・セメント彫刻についての制作技法を体験させ身につけさせる。
- ・野外における彫刻の美しさと環境の美化について理解させる。
- ・共同制作により、協力の大切なことを知らせる。

4. 指導計画

- ・ボール紙でいろいろな型のブロックのはめ型をつくる。……………2時間
- ・はめ型にモルタルを流しこむ。……………2時間
- ・いろいろな型のブロックを重ね表現活動をする。……………2時間(本時5/6)
- ・仕上げをする。反省。……………2時間

5. 本時の指導

- ねらい
 - いろいろな型のブロックの組合せを工夫させる。
 - 共同して作業をするよるこびや協力性を養わせる。
- 準備
 - 生徒 いろいろな型のブロック、板。
 - 教師 セメント、砂、パッキング、左官コテ、ブロック、はりがね、その他。

6. 本時の展開

要 項	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
導 入	・本時の学習とねらいについて話し合う。	・事前にセメントモルタルを作らせる。
展 開	・いろいろな型のブロックをどのように積み重ねていくか、グループごとに表現の方法を考え話し合う。 ・考えが一致したグループから、用意してあるモルタルでそれぞれのブロックを積み重ねていく。	・グループごとに表現について指導していく。(量感、質感、空間など) ・左官コテの使い方をくふうさせる。 ・積み重ねのさい、危険のないように注意する。
整 理	・あとしまつをする。	・環境の美ということからもあとしまつをしっかりさせる。

学習指導案

稚内高等学校 1年
 男 15名 女 15名
 指導者 中村昭夫

1. 題材 表紙のデザイン

2. 題材観

デザインの活用として表紙を題材に取り上げたが一般的な本の装幀ではなく、郷土の観光産業等をテーマにしたパンフレットの表紙を制作させたい。このことによりデザイン学習が、より身近なものになると考えられ、合せてレイアウトや配色の学習を深めるのに役立つものと思う。

3. 指導のねらい

基礎的デザイン学習から一歩進んで応用としての学習をさせ、デザインする物の諸条件を考えて創造的な構想をまとめるようにする。
 発想から完成までの過程を計画的におし進める能力を養う。

4. 指導計画

- 表紙デザインの説明及びテーマの話し合い……………2時間
- 発想の展開……………2時間
- レイアウト……………2時間(本時⁵/₁₀)
- 着色完成……………4時間

5. 本時の指導

ねらい ◦画面の配置をどうしたら目的に合致した構成になるか、切りぬいた図柄と文字を置き並べてレイアウトの学習をする。

準備 生徒 画用紙(地ぬりをしたもの)のり 水彩用具 切りぬきの図柄と文字
 教師 参考作品

6. 本時の展開

要 項	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
導 入	◦文字と図柄のレイアウトについて重要性を理解させる	
展 開	◦切りぬいた文字と図柄を色々に配置し構想をねる ◦二・三種類レイアウトしたら固定し彩色させる(配色練習)	◦文字の大きさ・余白などに気をつけ目に訴えるようにレイアウトする ◦文字、図柄と地色の明度差を考慮させる
整 理	◦あと始末させ次時予告をする	

学習指導案

稚内市立東浦小学校 4・5・6年
 4年 3名
 5年 7名
 6年 4名
 指導者 阿部 正

1. 題材 「いろいろなものを作ろう」(4年)「トーテムポールを作ろう」(5・6年)

2. 題材観

浜を歩くと波にうち寄せられた雑多なものの中に沢山の流木片を見つけることができる。木の根株・小枝、船板、杭木等々。それらはいずれも角が摩滅しているが、そのままの形でも既に造形的な要素を多分にもつものであり図工科の好材料として大いに利用出来る。さらにそれにキズを入れ、彫り、他の材料との組み合わせ・接合等の如き二次的加工を施すことによってもそれまでとは異った面白さが出てくる。

本題材はいずれもこうした身近な材料を使っている。高価な材料を揃えるということは共同購入の方法地域の特殊性、複々式という本学級の実態から考えても高価な材料を揃えるということは共同購入の方法をとったにしても個人負担が多くなりその他無理な面も多々あるので、出来るだけ地域にあるものを利用しようと思いつけている。

4月の題材では比較的軟質の材料を用いたアクセサリ的な彫刻であり、5・6年では卓上飾りないしは壁飾り的なトーテムポールの制作として取り上げてみた。

身近な材料から生まれてくる新たな美しさ、完成の喜びはもちろんのこと、作品に対する親しみもまた格別のものがあるかと思うし、こうした受けとめ方こそ次の造形学習に大きく利してゆくことだろうと考える。

3. 指導のねらい

- 身近に材料のあることに気づかせ、手を加えることによる新たな創造の意欲を起させる。
- 飾る美しさを感じとらせる。
- 自分の作品を自信をもって発表する能力を身につけさせる。
- (4年に同じ)
- 彫刻し彩色することによって立体的な表現力を養う。
- (4年に同じ)

4. 指導計画

- 彫刻刀を使って……………2時間
- 飾りものを作ろう……………2時間(本時⁵/₁₀)
- トーテムポールについての話し合い(下絵作成も)……………1時間
- 彫る作業……………4時間
- 彩色と作品についての話し合い……………1時間(本時)

5. 本時の指導

- ねらい** ◦彫刻刀の使用になれさせる。
- 飾るたのしさを味わわせる。
- 自分の作品をすすんで発表させる。
- 準備** 児童 彫刻刀、作業板、水彩用具、前かけ、新聞
 教師 ニス、シンナー、ニス刷毛、ニス皿、安全ピン、セロテープ、参考作品。
- ニスの使用になれさせる。
- 原色を使った効果的な彩色を工夫させる。
- 自分の作品をすすんで発表させる。

6. 本時の展開

要 項	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
導 入	◦本時の学習内容とねらいをつかむ。	◦彫刻刀使用による危険防止に十分気を配る。
展 開	◦仕上げ彫り。 ◦色を塗る。 ◦ニスを塗る(絵の具の乾燥度の確め) ◦仕上げ(ピンをテープでとめ仕上がり——4年)	◦机間巡視によりうまく彫れない子、塗れない子へ適宜指導(4年については全体の流れの中で適確に把握のこと)。 ◦5・6年の制作に注目させる。
整 理	◦作品を黒板に並べる。 ◦作品を鑑賞しながら、制作上の困難点・工夫点についての話し合い。 ◦あとしまつ。	◦作品をかくしたがる子を適宜指導する。 ◦それぞれの困難点・工夫点が個々に理解出来るように整理してやる。

学習指導案

稚内市立稚内小学校

特殊学級 男子 13 名

指導者 野田 誠

1. 題材 「一輪ざし」づくり

2. 題材観

昨年度第1回の展示即売会をもち、子供たちは作業に対するかなりの自信と意欲をもってきた。そこで、本年度の展示即売会出品作品として、木工作業をとりあげ、状さし、ペンダント、バンガーづくり等とあわせて、この「一輪ざし」づくりを計画した。

この作業によって、種々の用具の使用になれ、適切な機能訓練をなし、あわせて、協調性、根気強さ、責任感、注意力等を養いたい。

能力に応じた作業分担をし、その中で、自己の能力を発揮し、自信を深め、作品の完成のよこびを味わわせたい。

出来上がった作品を普通学級に贈り、校内美化の一助とするとともに、普通学級との友好を深めたい。

3. 指導のねらい

- 自分の仕事に誇りをもち、責任をもって最後までやりぬく態度を養う。
- 流れ作業、共同作業を通して、他人と協力し、仲良く仕事をする。
- かんたんな木工具を危険のないように使用させる。
- 材料、用具を大事に扱い、きちんと後片づけをする。

4. 指導計画 (7月～9月)

- 一輪ざしをつくる相談をする。
- 一輪ざしの形をきめて、仕事の順序を考える。
- 分担をきめて仕事をする。……………(本時)
- できあがった作品について話し合う。
- お金の計算のしかた、扱い方、品物をつつむ練習をする。
- お客への応待を練習する。

5. 本時の指導

- ねらい**
- ・自分にあたえられた仕事を最後までやりぬく。
 - ・みんなと力をあわせて仕事をし、自分勝手な行動をしない。
 - ・後仕末をきちんとする。

- 準備**
- ・ベニヤ板・くさり・紙やすり・ノコ・金づち・キリ・彫刻刀・ペンチ・ヒートン・くぎ・ポスターカラー・墨汁・ニス・シンナー・ニス刷毛・雑布・物さし版画板

6. 本時の展開

要項	学習内容	分担	指導上の留意点
導入	・本時の作業について話し合い準備する。	全員	・本時の作業内容を理解し、分担を知らせる。
展開	・作業をする ・ノコで切る。	(T.M (5年) J.H (1年) K.M (4年) N.M (6年)	・書かれた線のとおり。
	・紙やすりかける	(O.Y (4年) W.M (5年) Y.K (4年)	・むらのないように。
	・着色する 色ぬり一ふきとり ニスぬり	(T.T (5年) I.A (6年) S.M (4年)	・手ばやくむらなく。
	・彫刻する	(S.T (5年) M.K (5年) K.K (5年)	・力をいれて
	・くみたてる	全員	・刷毛の使い方
	・くさりをつける		・けがのないよう
			・きめられたとおりにきちんと
整理	・用具の後仕末と反省	全員	・くさりの長さを正しく
			・きめられた位置にヒートン

学習指導案

北海道稚内盲学校

小学部 1.2.3年 男2名 女1名

指導者 山田 光幸

1. 題材 「ねんどでつくる」

2. 題材観

盲児童(全盲・弱視)の図画工作の指導において考慮すべき点の一つは学習への欲求や興味の問題である。正常児はただ美しいものを見ただけで、それを作ってみたいとか、かいてみたいという欲求を自然に持つことが多い。またそういうものへの興味をおこしたりすることは、それほど困難ではない。しかし視力を全く欠く全盲児は勿論、弱視児であっても視力が弱いほか視野狭窄、眼球震盪等のため色彩、形等が全体に明確に識別することが困難なため、ものをかいたり、つくったりしようとする欲求をおこすことはなかなかむずかしい。

また盲児童は過去の生活経験が非常に少なく、この点からも正常児にくらべて、図画工作学習へのレディネスが著しく劣っていることができる。

以上のように盲児童の指導には種々雑多な問題があるのであるが、この期の児童として、並に盲児童の特性から考えて比較的取りくみやすい素材である粘土を使って自由に表現させることによって創造の喜びを味わわせ、併せて図画工作の基礎となる手や指の運動感覚、触覚による弁別能力の向上を目指したい。

3. 指導のねらい

- 子供の生活経験を想起して身近なもの(人物・動物・その他)の中から題を与えてつくらせたり、好きなものを自由にえらんで作らせ、立体的な表現力をやしなう。
- 粘土という取りくみやすい素材によって表現の楽しさを味わわせる。
- 手や指の運動感覚、触覚による弁別能力の向上を図る。

4. 指導計画

- | | | | | | |
|------|---------------------|-------|---------|---------------------|-------|
| (1年) | ○粘土の取りあつかいについて話し合う。 | 2時間 | (2年・3年) | ○粘土の取りあつかいについて話し合う。 | 2時間 |
| | ○粘土いじり。 | 本時 | | ○粘土で好きなものをつくる。 | 本時 |
| | ○好きなものをつくる。 | 3/4時間 | | ○つぼづくり。 | 3/4時間 |

5. 本時の指導

- ねらい**
- 粘土の特質を知り、取りあつかいになれる。
 - のびのびと自由に表現させることによって創造の喜びを味わう。
 - 物事を最後までやり通す態度をやしなう。

- 準備**
- ・油ねんど・ブロンズねんど・牛乳びんまたはその他のびん・紙ひも・新聞紙・粘土板・参考作品

6. 本時の展開

要項	学習内容	指導上の留意点
導入	○前時の学習について話し合う。	
展開	○本時の学習について話し合う。	○本時の学習のめあてを理解させる。
	○粘土いじり(丸めたり、細くのぼしたり、ちぎったり、くっつけたり)をしながら材料に十分なれさせる。	○手先の小細工に終らず、全身を使うような活動をさせる。
	○粘土をいじりながら何をつくるかを考え、決まったらつくる。	○個人差の指導
	○つぼの制作をする。	○最後までやり通すように適宜、激励と賞賛を与える。
整備	○完成した作品について工夫したところ、苦心したところなどについて話し合う。	○お互いの長所を認めあうようにしむける
	○あとしまつをきちんとする。	

□ 開 会 (9.30~10.00)

- ・開 会 の 辞
- ・挨拶 第15回全道造形教育研究大会長 新 妻 清
- ・祝 辞 稚 内 市 長 浜 森 辰 雄
- 稚内市教育委員会教育長 赤 川 丸 志
- ・講 師 紹 介
- ・日 程 連 絡
- ・閉 会 の 辞

———— パネルディスカッション (10.00~12.00) ————

主 題 子どもの造形能力をどう捉え、どのように伸ばしたらよいか。

司 会 札幌伏見中学校

齊 木 梶 一

浜頓別中学校

吉 田 徳 夫

提 言

札幌発寒小 種 市 誠 次 郎

室蘭成徳中 諏 訪 英 雄

名寄市南小 伊 賀 明 久

稚 内 市 清 水

子どもの造形する力を見つめよう。……造形する力、すなわち造形能力をたしかなものにすることは、図工科の指導の科学化であり、学習内容の焦点化ともいうべきものである。これが教科性の確立ともなる訳である。

戦後から今日まで、造形教育がさかんになるにつれて、研究会や、各種の展覧会がもたれ、また、新しい教材も次々と出され、一般社会の関心も昂まってきたけれど、われわれ図工教師はそのムードやスタイルに押し流されて落ち着きを失ない、驚きや迷いの中で果して何を指導すればよいのかさえもわからなくなった時もあったように思われる。それが評価をさらに困難なものにしたように思われる。

さて、いま、私たちは何年かの調査と実践指導や研究を積み重ね、さらに過去の経験を加えて、「かくあるのではない」「あらなければならないのでなからうか」というものをまとめて、造形能力の体系表と学習内容の系統表をつくりあげた。

ここでは造形能力を表現力(発想、計画、技術、構成力)と鑑賞力とした。その核心をなす構成能力は、造形秩序を意識化することで、これには発達段階を学年に応じて示してあり(また、一人の子どもの成長化としても考えられる)〈教えるもの〉〈能力化できるもの〉として、指導の焦点を明らかにした。これによってさらにカリキュラムの改造を考えている訳である。

私はこの能力表を作成した一人として、その立場の上に立って捉え、造形教育がもっている。〈表わすこと〉〈つくり出すこと〉の仕事を通して、人間のしあわせや人間性の問題、あるいは創造ということについて考えてみたい。さらに造形秩序の位置づけをはっきりさせていかなければならないと考えている。

また、どのような造形能力を伸ばすかということについては、造形教育のねらいを達成するために必要であり適当である能力をつけさせるための具体的事項として

- 1 価値ある教材、題材を見つけること
- 2 指導の方法として、特に動きづけとしての興味や発想の点を工夫すること
- 3 感覚をたかめること
- 4 表現力や生活に生かす力を伸ばすための助言
- 5 子どもの実態や地域性を考慮すること
- 6 どの教師によっても指導ができるための教師自身の昂まりが必要であること

等があげられるが、この研究は地道にそして組織的に個人及び地区のサークルを通して実践し、たしかめられなければならない。

この大会では、作品を中心に、作品のねらい、指導の重点、作品のできるまでの経過、時間や学習指導の方法や形態、造形能力表との関連等について話し合いたい。

札幌発寒小学校 種市誠次郎

提 言

造形能力という言葉がどうして浮彫りにされてきたかということについて考えてみると、一つには造形教育の研究が高まって、この教育の周辺に介在していた諸問題が解決されて、いよいよ造形教育の実体にとり組んだという考えと、最近云々されてきている科学教育とか、技術革新というものにあおられて〜力とか、〜能力とかいう言葉の置き換えによって対抗しようとしているようにも見られる。

元来造形教育は感覚を通して行なわれるために科学的、論理的なものにくらべて不正確な頼りないもののような印象を与え、何か他の教科とくらべて低級なもののように思われ勝ちである。そのために造形教育も科学的に再編成しようとする動きのようにも考えられる。

しかし造形教育は感覚を通して直接的に対象の本質をとらえる面とこれを造形的手段によって表現する二面がこの教育のねらいであって、感覚を離れては成りたない。

芸術は感覚を離れることはできないが感覚そのものでなく感覚以上のものである。真理は論理的な手続きによってのみ扱えられるものでなく、超論理的な感情と結びついて一層正確に、また直接的に把握されるものだと思う。

多小まわりくどい言い方だったが、以上の考えに立つて造形能力を次のように考える。

- 1 造形活動を要求するもの
- 2 制作のためのアイデア
- 3 制作の手だて
- 4 制作
- 5 作品をうけ入れる心(鑑賞、使用)

以上の一連の造形活動をはたし得る力をさしていると思う。しかもこれらの活動の中でややもすると、2~4までが造形活動として強くとり上げられ勝ちであるが、む

室蘭成徳中学校 諏訪英雄

しる1と5も永久に人間に残るものとして尊重したい。以上の造形能力をどのように伸ばしたらよいか。まず教育は元来「人間を世の中に適合させようとするはたらき」と同時に、世の中を改革する人間をつくらうとする、相矛盾した使命をもっている。

この2つのはたらきをいかにバランスさせるかというところに今日の教育の問題がある。

理性的に考えればいかにして自分を世間に合わせようかと苦心するだろうし、非理性的な人間は自分自身に世間を合わせようとする。この際「進歩」は非理性的な人によってつくられるという。造形教育の中の技術指導か、感覚指導かということの中にもこれと相通じる問題点があるように思う。

今日の学校教育が現実の中で子どもは、進学、就職、マスコミに流されて、自分自身をつかむ暇がない。この環境に適合されては自己喪失者同志ではお互に共通意識をもつことができなくなる。人は個性的になればなるほど、他の個性を認め、これを尊重しともに生きようとする意識をもつようになる。

自己喪失の原因はいろいろあろうが自分自身の問題をもっていないことにもよる。一生かけて解決すべき自分の問題をもってはじめて真の創造活動がなり立つ。一つの題材の中から多くの問題点をみつけ出させ、これを解決させるために独創的に誠実に、忍耐強く育成することが必要である。

失敗のないお膳立てや、一定の型にはめこむことは折再の芽生えようとする生徒の独創性、創造性をつみとってしまう。一般社会では失敗は許されないが、教育においては失敗の中に新しい問題が発見され、子どもの創造的な働きを促進する可能性が含まれているなら無批判な受け入れよりも効果が多い。

討 議

- 1 子どもの造形能力とは何か
それはどこから出発するのか
- 2 子どもの感動源はどこから出てくるのか
- 3 子どもの造形能力を何のために
どのように伸ばしてゆくか
- 4 子どもの造形能力を伸ばしてゆく
上での問題点は何か
- 5 子どもの造形能力と人間形成について、

の 柱

- 造形教育を通して子どもにどんな能力をつけるか。
- 造形能力を伸ばすためにわれわれはどうしたらよいか。
- 造形能力と効果的な教材題材の選択設定をどうとらえたらよいか。
- 造形学習における造形能力の焦点化をどうとらえたらよいか。

浜頓別中学校 吉田徳夫

札幌市立伏見中学校 齋木梶一

分科会 (13.00~16.00)

No.	分科会	主 題	司 会 者	提 言 者
1	描 画 1	描画指導の系統性をおさえ教材の面から子どもの造形能力についてたしかめよう。	室蘭大沢小 石塚 潔 尾白内小 浜 実 尾白内小 浜 実	帯広相小 成瀬 登 尾白内小 浜 石丸 雅 室蘭東園小
2	描 画 2		苫小牧東小 遠藤 未満 札幌月寒小 側瀬 宇太郎	追分小 池本 良三 登別観別小 小崎 信夫
3	描 画 3		滝川研究所 一の戸信雄 赤平茂尻中 斎藤 富雄	芦別中 東志 隆 日高高静小 上野 義之
4	版 画	版画指導の " "	稚内声間中 三国谷美名雄 札幌山鼻小 橋 本 富	稚内小 久我 宏 別 中 酒井 盛行
5	工 作	工作指導の " "	礼文船泊小 佐藤 光吉 札幌附属中 三谷 哲司	札幌附属小 森川 昭夫 名寄南小 太田 寛
6	彫 塑	彫塑指導の " "	利尻船泊中 小笠原 仁 夕張太小 本田 哲也	由 仁 中 島垣 純男 南 幌 中 南 巖衛
7	デザイン 1	デザイン指導の " "	稚内指導主事 納谷 秀夫 上川一の橋小 神田 耕治	温根湯小 黒沢 正元 網走第一中 浅野 道弘
8	デザイン 2		札幌曙小 長谷川 伝 函館船見中 籠村 虎雄	札幌東小 金井 秀男 函館愛宕中 田辺 康夫
9	デザイン 3		札幌一条中 土門 孝 古丹別小 志村 猛	留 萌 小 橋場 昌三 苫小牧東小 船着 昭弘
10	鑑 賞	鑑賞指導の " "	宗谷指導主事 酒井 郁夫 札幌陵北中 吉田 広往	稚内中 伊藤 善彬 宗 谷 末 彬 定

描 画

描画指導の系統性をおさえ、教材の面から子どもの造形能力についてたしかめよう。

札幌市立月寒小学校 側瀬 宇太郎

造形教育がただちに名人芸として特定の人による特別な教育とは、もはや誰れも考えてはいない。子どもの生活の広がりとともに子どもの発達を組立てていく科学であるという立場から教師全体のものとして普遍性のあるものを系統化すべく私どもの貴重な実践と成果の積み上げによって、教科の中味と子どもの生き方を結びつける仕事として38年度には「学習内容の系統表」が誕生した。

引続いて子どもの造形能力を「発想、計画、技術構成」の能力の面から分析し、能力の標準を体系化して「造形能力の体形表」が札幌大会で試案として提示され、一応認められたとはいえ、「表」としての短かい文章表現や耳

新しい語句による(例、ベースライン等)秩序のおさえ方など、内容の理解に相当の時間と検討が要求され数多い問題点が指摘された。そこで本大会ではこの能力体系表の裏付け研究としての問題点を解明し、学習内容の吟味を実践を通した私たちの経験をもちより、より確かなものにして行きたいと考える。

- 1 描画における領域をどのようにとらえたらよいか実践例をもとにたしかめよう
- 2 どんなものを描かせたらよいか題材の上からたしかめよう。

描 画

2 分科会

「何をどう見せるか」その手だてなど

勇払郡追分小学校 池本良三

造形学習の中で「見る」ということは欠かすことのできない大切なことですが、「さあよく見てかきましよう」だけでは、真に現実を認識し、明日への道を切り開いていく力強い子どもに育てていくことはできないということを私たちは知りすぎているはずで

観察表現といっても、その中に「見ながらかく」「見たものをかく」イメージをにつめるために、また、ふくらませるために、などいろいろなたらきや、考え方があられるが、観察する主体そのもののイメージが貧困であるならば高まった表現にはならないであろうし、主観性のない観察は無意味なものになってしまうであろう。

「何を」「どう見るか」という教師の働きかけ、描こうとするイメージをより明確に表わしたいと思うことから、子どもの積極的な、主体的な観察が始まるのだと考えています。

「何を描くか」ということの大事さは、「何をみるか」

ということとそれを「どう見るか」ということにつながっていくことであり、「何を」という主題を見つけ出させる教師のしごとが子どもたちに、「どう見るか」という主体的な働きを与えていくのだということから、それらの働きかけとその手だてをまず考えていこうとしています。

- ・ テーマの個別化と働きかけ
 - ・ 何をかくか
 - ・ 同一テーマを与えて
 - ・ 広いテーマを与えて
 - ・ 自分が探すテーマ
 - ・ 条件を与えてテーマを探す
 - ・ 何をみるか
 - ・ 主題による積極的な働き
 - ・ 比較観察
 - ・ 空間認識
 - ・ 特徴づけ

- ・ 子どもの「見る」ことによる空間認識の傾向
- ・ 認識と表現の問題

私たちは、「見ながらかく」ということだけでなく、もっと間接的な種々の要因がからみあった広い意味の観察表現を考えました。

2 分科会

「授業研究と子どもの表現」

観別小学校 野崎信夫

子どもの描画表現の問題は、表現をめぐる、認識や技術あるいは思想性を追求する中で同じと考えられるべきものである。そのような、さまざまな関連の中で教材をおさえ、子どもの造形能力について、提案したいと思うのである。もうひとつは、できるだけ研究主題(観察画)にそって考えていこうとしているのである。また、じょうずな絵を描かせたり、器用に物をこしらえさせたりすることが目標でなく、教科全体の中で「人間づくり」をめざしていることだという立場の上で考えていきたい。

観るといふしごとを通して、生活経験を深め、想像の過程へと発展し、想像の過程から観るといふ過程をひき出し、「何を」「どうとらえ」るのかを授業分析の中で問題にしたいと思います。従って次の提案を予想しています。

- ・ 教育全体構造の中での教科の位置については、連

盟より、提案されるのであろうし、その中で本質についてふれるのであろうと思います。

その上立って

- 1 教材をどう構造するか。
- 2 授業発展の過程を追求する。

ひとつの教材を子どもは、どう受けとめ、教材を指導してゆく発展過程と観察によって、子どもが認識し、思考(造形的)していくのか、それを、どのように組織化していくかを仮説としておさえ、それを授業分析し提案したい。

- ・ 表現の過程では観察だけで仕上がるものではない。観察したものを「どう組織化(表現)」していくのが問題になるのではないかと思います。写生と言ったものとは違った意味で観察画をおさえるのである。

描画

3分科会

「系統化をねらう学習指導の展開」

芦別市立芦別中学校 東志 隆

- 1 私の美術教育観、おけても描画指導観
- 2 指導の系統性をどうおさえるか……その入り方
- 3 こどもの実態から……どんな子どもにしなければならぬか
- 4 赴任3カ月の実践から……新しいカリキュラム自主編の必要性……系統化をねらう指導の展開
 - イ 観察表現を基盤として
 - ・描けぬ子どもを描けるこどもに
 - ・まずこどもの心を掘りおこす仕事を
 - ・選題との関係
 - ・視ることと視つめて詳しく描くことの大切さ
 - ・描線の約束で——線と生命、感情、意志
 - ロ 観察表現と基礎造形力
 - スケッチで詳しく描けても彩色で投げ出してしまふこどもの実態から
 - ・基礎造形力をもたせる指導の必要さ
 - ・「煙り」・「夕焼け」・「空」・「白壁」などの観察、心象、想起表現を通じて表現法、表現の深さ、巾をもたせる技法を創造的にひろげていく仕事

- 4 プリンティングで
 - ・条件学習を通して
 - ハ 基礎造形力の発展深化を
 - ・何んにでも執着工夫創造していくこどもに
 - ・生活事象 現状改新の眼に高める
- 5 子どもの造形能力はどこまで高められるか
 - ・滝川での実践から
 - ・地域サークル活動を通して
 - ・中空、空知の研究の動き

3カ月の学習

詳しく視、詳しく表現しよう。

- 1 先生や友だちのスケッチ
- 2 樹皮、不思議な美しさをえらんで
- 3 樹皮からデザインに
- 4 教室の窓から風景描写
- 5 基礎造形を 色彩表現を
- 6 風景描写

今までの総合学習、詳しい表現を

描画

3分科会

描画における観察表現の指導について

高静小学校 上野 義之

小学校も高学年になると、写実期といわれているように、写実的な表現をしようとする傾向が強くなります。これは発達段階によるものであり、この時期に、存分に写実の経験をさせることはただ単に、描写力をつけるということだけではなく、自然の法則や真理を正しく理解させることにより、真理を発見するよこびが造形活動を刺激し、創造活動を活発化させるものだと考えます。しかしこの時期は非常に概念化しやすい頃ともいわれ、ややもすると観察表現が単なる模写や、概念化されたフォルムや色彩による表示に終る危険性が多分にあります。観察表現の中でも特に人物がそれを代表しているかのように概念化され、形式化した人物で感動を欠く画面に接するのは、余りにも多いようです。そんな人物の概念の傾向を、フォルムの上から大まかに見てみますと、頭でっかち型、人形型、否活動型となるようです。

このような概念化をさせぬことが、先決ですが、すでに概念化してしまったものに対しては、概念くだきをしなければなりません。しかしそれは教師の押しつけではなく、子どもたち自身に気づかせ、自らの力で解決させるのが最もよく、その方法としては、ものをよく観察させ発見させることだと思います。

そのためにはいつでも納得の行くまで継続的に観察できる題材を与え、分析的、総合的に観察させ、個性に応じた創造的な表現ができるようにしてやらなければなりません。そこで友人という概念を、型や色彩の傾向等から調査し、造形能力をたしかめ、適当な指導のもとにその能力を高めてやりたいと考えます。

1分科会

絵をかく力をどう伸ばすか

—個人差解消の悩みから—

帯広市立柏小学校 成瀬 登

久しぶりに1年生を受けもつことになった私は、胸を張ってかざりつけのしてある教室へ入って来る子どもたちを待っていた。

蝶ネクタイスタイルでかけ込んで来る子どもたちは私の期待を裏切ることなく、明るい笑顔を浮かべていた。元気よく、発刺としている42人であった。

入学後、3日目、はじめて「すきな絵」を八つ切りの

画用紙にかいた。

ぐんぐんと力強く飛行機や鉄腕アトムをかいた子、きれいな家に可愛い人形と色数も豊富に使ってかいた子、——そして、それとは対象的に何をかいたのか見当もつかない子、おどおどしてかいている子——

入学当初における……これほどの個人差にはおどろいた。これを授業の中で解消していかなくてはならない。解消できないまでも、少なくともこの差を縮める何らかの努力はしなければならない。

このささやかな悩みが、私の研究への出発点であったことには間違いないだろう。

○ 研究内容と問題点

版画

4分科会

版画指導の系統性をおさえ教材の面から

子どもの造形能力についてたしかめよう。

札幌市立山鼻小学校 橋本 富

日本独特の表現形式である版画の特性（間接表現・複数性・偶然性・計画性・多様性等）については、すでに過去何年かの討議で話しくさされていると思うので、今年は教材の面から、各自もちよりの作品を通して、その指導体験を話し合ってみたいと思う。

版画が単なる技術や版式の指導でなく、その特性から見ても、極めて、教育効果の高いものであることは明らかであるが、具体的に次のような問題点をあげ、これを柱として主題をまとめて見たい。

4分科会

ひと口に版画といっても、多数の版形式や技術があり、その上、絵の直接的な表現に比べて、子どもにとっては実に、自由にならない版材や用具、発想から定着までの長い長い時間を必要とする困難な題材です。

これらをどのように整理し系統づけるか？暗い部屋で物を探すような歯がゆさでいっぱいです。

とはいいながら、中学校ではもう単なる解放の段階ではなく、子どもの成長に応じた計画的な題材や主題の配列が要求されます。学力向上や高校入試に押され、干からびていくこの時期の子どもたちの心をゆさぶり生きかえらすような、生々した表現活動の計画が欲しいと切に思います。

勿論これは版画指導だけの問題だけでなく、美術科の

●メモ欄

1 入学期における描画（造形）能力と個人差

① 個人差の要因（外的、内的面から）

② 個人差解消への足がかり

2 描画（造形）能力を高める指導の手だて

① カリキュラムのほり下げ

② 表現材料の工夫

③ 家庭との連携

3 成長過程の研究

① 児童の反応 ② 教師の反省

以上、研究の発端と要点を綴ったのですが、私自身、子どもたちの明日の前進を期待しながらも、現在は泥沼に落ちこんだごとくもがいている始末です。

1 各学年に適切な材料と表現方法

それは子どもの、どのような造形能力と結びつくのか。

2 発達段階に伴って、評価は、いつ何を、どのようにするのか。

以上2つの窓口から、発想→計画→彫り、→刷り等の指導過程をほりさげ、版画指導の系統をあきらかにしたい。さらに前年度に引きつづいて、能力表も修正し、より高度な版画学習ができるようにしたいものである。

石狩当別中学校 酒井 盛行

問題です。

わたしたちは、版画指導のポイントを2年のリノカットによる多色版制作におき、1年に単色・3年にドライポイントを配当してみました。（実のところわたしたちのカリキュラムの重点は立体表現の集団制作なのです）

子どもたちはいま、ちょうど版画と取り組んでいる最中です。いろいろな問題が見えていますが、このことについては省略します。こんな中で大会当日どんな作品をもっていくことになるか、不安と期待でわたしたちは子どもの仕事を見守っています。

本庄陸男の石狩川で脚光を浴びたこの土地はも早すでに本庄のポエジーから遠のいたものになってしまいました。

北海道学芸大学附属札幌小学校 森川 昭 夫

子どものもっている装飾本能をはげまし育てることによって、工作の面にも大いに発展させる方法があるのではないかと。さらに装飾を平面ばかりでなく、立体、空間にまで広げ、子どもの造形認識の中を広げてやれるのではないかと——ということが研究の出発である。

- 1 「役に立つもの」とは子どもの世界ではどんなものか。子どもの欲求をたたきおこさせ、必要感をもたせ、それから生ずる素朴な生まれるものを育てたい。その表現意欲をさかんにする題材にはどんなものがあるか。
- 2 男子は機械的な立体デザインに、女子は緻密なものに興味をもっているが、その片寄りを直す方法はないか。
- 3 この分野の創造性の乏しさは何が原因か、またどのようにしておぎなったらよいか。(既成概念打破)
- 4 工作面の集団で思考させ、計画させる共同制作も考

今回までの工作関係の部会で話し合われたものの、とくに目につくことは、第一に材料の不足に対する解決策、第二に用具の不足とその解決策である。

その他についてはほとんど、技法についての細部や、創意のそだて方と、セット教材等の問題について考えられたように思われる。

材料の不足は費用の関係で、悩むことであるが、その話しあいだけでも困るように思う。また、工具の不足も同じ問題である。教師の熱意によっていくらかでも解決できるとすれば、次の問題点へと発展していきたい。その点で「系統性や……」そのものについて話し合いを進めたい。従って、討議の柱として次のようなことが考えられるように思う。

- 1 系統性をどのように考えたらよいでしょう。
 - ア 造形能力の面から——発達段階を考えて
 - イ 教材の面から——素材とねらい

えていったらよいのではないかと。(個人の思考と集団思考との交流からイメージの展開と飛躍を期待する)

- 5 何で作るかを考え、材料の可能性を固定概念ぬぎで追求させるには、どんな方法があるだろうか。
- 6 機構や構造についての理解を深めさせ、機構的な玩具、模型にも造形的、美的なもの(装飾)も考えさせるにはどうしたらよいか。
- 7 材料、工具、技術などと、子どもの能力や実態との関係を調べ、直接「教えねばならぬもの」と「考え気づかせるもの」を明確におさえたい。
- 8 発想から構想への過程をどのように練らせたらよいのだろうか。(計画のための時間を十分考え、アイデア、スケッチをくり返し、具体化させながら考えさせる)

以上の問題点を少しずつ解明するため、いくつかの実践例をとりあげ、スライドを通して考えていきたい。

学大附属札幌中学校 三谷 哲 司

- 2 工作教育の障害となっているものは何か。どう解決されたらよいか。
 - 二つの柱を中心に討議したいと思いますが、別にお気づきの点があったら上げて下さい。
 - 第13回余市大会での提言にも関係があるので、次にあげます。
 - 発達段階を考えて、低学年から高学年に
 - 自由な表現から——制約にもとづく表現に
 - 自然発生的な遊びの中から材料、手段、方法を考える——制作がやや加えられ、試行錯誤的に解決の方法を工夫して——目的に応じた解決の方法を計画的に試みようとする。
 - 材料の経験を豊かにし——特性や可能性に関心をもたせる——選択し確めて取扱う工夫を培う材料の特性を考えてみる。

南幌町夕張太小学校 本 田 哲 也

造形学習における彫塑の分野の活動は、その可塑性(造形性)の広さ(深さ)から、大切なものであるという認識は、それぞれの指導者がひとしくもっているところであるが、その活動における制約が、彫塑学習をさまざまに広げているといえる。したがって、本道における彫塑の学習活動は素朴な段階にあるといえるのではないだろうか。また、作品にみられる傾向として

- 形態にとらわれすぎるもの
- 単なる平面の延長とみられるもの
- 技巧の域からぬけ出せないもの

などがみられ、本来造形能力をつちかう学習として、その造形性が十分発揮され得る内容をもつ彫塑分野がなぜ前述のような傾向にあるのか、本大会において研究討

6 分科会

昨年の札幌大会において「彫塑学習における子どもの造形能力」の問題が討議されたが、その反省に立脚して実践した中から「彫塑学習において期待する造形能力と効果的な教材・題材の選択」について、この提言をする。

- ① 対象を平面的にのみ把握することに慣れている子どもたちに、より奥ゆきのある、深みのある表現をさせたいと希うのは、美術教師共通のねがいであるが、そのために、従来の美術学習で考えられがちだった。彫塑—粘土細工という概念から脱却、地域にあるいろいろな素材を現代的な考えの上に立って広く利用し、平面的な絵画表現のマンネリズムを打開する。
 - 学習の系統として(本校の実践)
 - 塑造—紙塑→石→ブリキ(空缶)→新……→はりがね
 - 彫刻—根っこ↑石けん→薪→粘土→レンガ→雪
 - ② 題材については観察表現を重視する。自由に選ばせることもよいが、やはり一つの型や好みに落ち入り安直なものに逃避したり狭い範囲にかたよる傾向にある。特にテレビ、雑誌などの影響に流れ、男子は飛行機、船、戦車、怪獣、ロボット等、女子は人形や装飾性の強いものになりやすい。

6 分科会

- 1 研究主題(研究領域)
 - 中学校美術課程における彫塑学習の在り方とその実践研究
- 2 領域の吟味
 - (1) ねらい

議したいものである。幸い2人の提言者が、別掲のような提言を行なって下さるので、下記のような問題点について討議を行ないたいものである。またそれぞれの実践者(参会者)も日頃問題をお持ちのこととされますので、当日さらに問題を明らかにして研究を深めたいと思います。

- 素材と子どもの能力
- 立体表現と平面表現の特徴
- 子どもの作品にみられる傾向
 - ・自然形態と子どもの表現
 - ・動感と細部の表現
- 表現をそ害するもの

夕張郡由仁町立由仁中学校 島 垣 純 男

これは現代の一般的傾向かも知れぬが、ただ単に外部から与えられるものを受け身に安直に模倣してしまうだけでなく、自分自身の体験を通しての題材を大切にしなければならぬ。

- ② 中学校の、彫塑指導においては、量感(1年)均衡(2年)動勢(3年)に留意して指導するなど、昨年の札幌大会でも話し合われたが、実践の中から子どもたちは、
 - イ 立体表現のポイントが十分つかめないうえ、作品が平面的になりがちである。特に角材から作る場合にその傾向が強い。
 - ロ 表現が外形の細部にとらわれすぎる
 - ハ 面の集まりであるという立体のとらえ方が不十分であるため量感が出ない……ことなどが指摘できる。
 従って、彫塑学習前にデッサン指導を十分すると共に彫塑における視覚と平面における視覚に相違があり、視点がちがうということも明らかにすることが必要である。それは対象を視覚がともなう触覚的な感覚が立体を把握する時の大きな特徴であると思う。

空知郡南幌町立南幌中学校 南 巖 衛

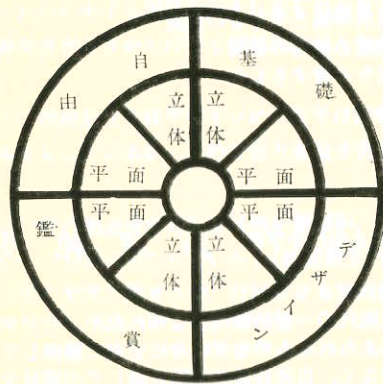
- 美術科領域における立体分野の系統学習の確立の必要性。
- 彫塑学習における対称の見せ方。
- 地域生活の中から資材としての教材経験。
- 彫塑学習における抵抗打破指導の必要性。

(甲) 時間配当

(南幌中学校立体表現題材配当表)

学 年	題 材	時 間
1	塑 造 レ リー フ マ テ リ エ ル 学 習 立 体 構 成 (木)	6 4 6
2	線 材 オ ブ ジ エ 彫 木 立 体 構 成 (線)	4 8 6
3	石 膏 オ ブ ジ エ 置 彫 舞 台 装 飾 木	5 6 8

(乙) 他領域との関係(空間概念を基礎として自由表現の立体の中に基ずる。)



実践研究記録 南空知地区 南幌中学校
領域(彫塑)2年生の総時間数(18時間)

●メモ欄

1 主題名 木 彫

時間(8時間) 2年A組 男26名
女22名 計48名

2 主題のねらい

(1) 主題設定の理由

子どもたちの身近にある生活の中から資材を発見し空間に材質の美しさを生かし作業を進める。その中で相当抵抗が感ぜられると思う木彫を克服させることによって完成の喜びを深めてやり表現に対する興味と理解を増進させる。

(2) 指導の焦点

- (イ) 立体の把握とその正しい見方
- (ロ) 立体創造の確立

3 今後の問題点として

- (イ) 生徒は身近な素材でありながらなれていない。
- (ロ) 彫塑本来の大切なポイントが押えられていないため平面的になりがちである(量感の不足)
- (ハ) 一般に創造的な自由な表現をさせようとすると一部のものが望ましい傾向であっても相当のものが対象の把握に見当はずれとなる場合が多い。
- (ニ) 表現は外面の細部に集中しやすい。
- (ホ) 材質を生かすところまで行かない。
- (ヘ) 用具の扱いから来る抵抗が多々見られた。
- (ロ) 量に対する指導, 空間に対する考えが全体を通して見た場合不十分であった。

デザイン

デザイン指導の系統性をおさえ教材の面から子どもの造形能力についてたしかめよう。

9 分科会

理論と具体実践を密着させて話し合おう。

目ごろ感じているこの種の研究会の雑感めいたものを最初に記して、どんな立場で分科会を司会しようとしているかに代えたい。

毎回、デザイン教育の定義づけとか、どんな範囲をつかまえるのかとか、系統性とは、子供の造形能力とは、と真向うから概念規正をやって具体に入るのを見るが、これは甲と乙が論戦し合うことを最初から頭に描いている場合は当然の筋道であることを否定しないが、私たちの研究会は西と東の対立ではあるまいし、これで時間を猛烈噴って、具体に密着した展開なしに時間切れになることは、何としても惜い。

論究の立場が相当噛み違ったら、そこでやることを前提にして、実践に密着して討究し、それが理論に結びついて行く。こんな発想ではいかかか。

よくそれは理論でそれでよい。これは実践だからこう

8 分科会

実証による話し合を!

・ この分科会を進めるために私は、こんな会場風景を胸に描いています。それは、えらく張り切って話し合、めっちゃくちゃに頭の混乱した司会者をたたきのめして、振りかざした作品を互に、確めあう人でいっぱい。話し合いに参加しない人は、ツイストを踊る人を、遠くからながめているような、わびしさに打ちひしがれて。

とにかく、自分の体でたしかめるんだな。

開らにヤッソ、ソソ。

子どもにこんな教材を考えてやったら、こんな思いもかけない作品が出てきたんだ。エライヨッチャ、エライヨッチャ。

子どものこの作品に現われたオリジナリテ、に乾杯!! それだから連盟提案の体系表、系統表にめっちゃくちゃに朱を入れたら。

北海道の教育の底流をなすわれわれの発言を、大切にしよう!! と。

札幌市立一条中学校 土門 孝

なんだ。と割り切っている方がいらっしゃるが、こんなことで私たちの願う子どものしあわせは生れてくるものだろうか。この理論からこの実践が生れたのではなく、この実践はこんな考え方をしていることに気づいた。これが具体の日々の姿でしょう。次に討議の柱を描いてみます。こんな工合でいかがでしょう。

1 私は一年でこんなデザインを二年、3年では…をやっていると、日常の具体を論じ合いながら、なぜこれにつながらないで、それに持って行くのなどと討究し合う。

2 こんなデザインをとり上げつつあるが、こんな困難を感じている。この困難点をおたがいの手で解決する方法をさがし合う。

3 子どもはこんなデザインの時生き生きしたを話し合って、教育全体の場での価値づけを確め合う。

4 デザイン教育の陰路をこんな風にとり除いてきているを話し合っておたがいを勇気づける。

札幌市立曙小学校 長谷川 伝

実証性のない発言はこの部会では、あり得ない、すべて実証の中で——失敗したんだよ——この時は、うれしかったな——と、お互の身近かなものを示し合ってよりよい形を考え出したものと思います。

ただ、今は研究期間が短く、中間発表としての、話し合いになると思われます。先を急がないで、現在の姿の中で一歩前進しようではありませんか。

- 教材の選びかたのくふうをこらしている。
 - 題材を、子どもの発想にとけこませるためのくふう、展開、助言をこらしている。
 - 同一題材を数次にわたって、発想のさせ方、素材の選び方、助言、展開を変えながら指導した場合の作品の変化はどうなっている。
- 学年別に見ると、どんな点がちがっているのか。など、話し合いたいことがいっぱいです。

デザイン

9 分科会

第10回 (網走大会) テーマ

○豊かな適応表現をさせるためのデザイン指導はどのようにしたらよいか。

第11回 (滝川大会) テーマ

○子ども本来の姿としてデザインはどんなものか究明した仕事を紹介しあう (小学校)
○形や色を通じてデザインとしての基礎的トレーニングはどうしているか、新しい指導方法を紹介しあう (中学校)

第12回 (名寄大会) テーマ

○生活を深めるためのデザイン学習を子どもの発達に応じてどう指導したらよいか— (小学校)
○デザイン学習の問題点と指導の系統性について話しあいましょう。— (中学校)

第13回 (余市大会) テーマ

○デザイン領域の低迷している原因はどこにあるのか話しあいましょう。— (小学校)
○中学校におけるデザイン教育の問題点について話しあいましょう— (中学校)

第14回 (札幌大会・第9回造形センター全国大会) テーマ

○子どものデザインとは何か。

デザイン指導の系統性をおさえ教材の面から子どもの造形能力についてたしかめよう。

吉丹別小学校 志村 猛

○これまでの大会とのちがい

①分科会のもち方とテーマのとりあげ方

これまでの大会では小学校、中学校、高校と別々の分科会がもたれ、テーマもそれぞれ別々な問題がとりあげられている。

②今年は「デザイン」の分科会を学校種別でなく「飾る」(基礎造形)「知らせる」(視覚伝達)「使う」(機能造形)の三つの領域に分け、それぞれの分科会がもたれるようになった。

従ってこれまでより各領域(学習の場)での指導の具体化といった面で研究の深化が期待されているように思われます。

分科会No.9「デザイン」では「使うデザイン指導」の面で

①指導の系統性をどのようにおさえたらよいか

②色や形などの造形感覚の基礎訓練をどんな方法でしているか

③材料や素材をどうしているか

④感覚訓練、機能性の指導、生活造形に結びつける方法——などが研究の柱となるのではないかと思います。

8 分科会

子どもの心理性を大事にしながらか造形能力を養うためのデザイン学習

札幌市立東小学校 金井 秀 男

についての私論を提示してみます。

○低学年 ひくことを主とする。子どもの腕の筋肉発達を十分にさせる身体的感熱に併わせて、くりかえし、点つなぎの仕事が考えられます。

線には、よわい、つよいという性質があり筋肉発達の功績性を一層感覚的に深めさせたい。題材としては、雨の降ってきた、いろんな風照りつく太陽といったもの。

○中学年 ここでは表現材料に巾をもたせすぎないことです。平易な線材によって、こする、はじく、ひっかく、ながすといった方法を用いて発見させる学習へとつとめたい。また具象物を通してたとえば一本の幹より無数の枝を生みだすようにさせる方策や音楽による絵なども試みるのがよい。

○高学年 心情的課題を与えながら、線のもつ感情性を目的的につかみ、認識手段としての造形要素の知覚化へとつとめるべきである。——実際例を作品で提示し批判を待ちます。

方法上の一部の提案ではありますが、これは子どもの表現方法の傾向や指導上の留意点を着想、観察、内容、技能、効果、性的向上、感度といったこまやかな視点の上で、指導を構築しなければなりません。そのことによって、子どもの能力がはっきりと教えるものへの指導軌道に定着されることでしょう。

言語は思想を明晰に表現するための唯一の手段であり、言語で表しうる思想でないものは、すべて感情であります。造形教育での子どもの行為は、すべて視覚言語を用いて充実発展させるものです。

子どもが稚拙な表現で、魚や虫を描くことによって認識を深めることなのです。従って、造形教育は造形行為を認識活動の活発化と育成に向かわせるように計画されねばなりません。

ひとつの認識行為による表現上のパターンに熟達することは巧みになればなるほど、本質的な認識活動の能力から遠ざかる場合もありうるわけです。

一つの表現方法をもとにして、その方法による表現能力の達成だけで安心することは、認識能力の助成と促進を本来的に使命とする造形教育を表現の結果主義に横すべりさせることになる危険があるはずで。

そこで、ここで提言することがらは、まったくの認識手段としてのほんのわずかな方策にすぎません。ひとつひとつの教材を吟味しながら、子どもの可能性を開発するため手段としての試みであります。

イメージは、生活の必要性という条件によって造形させるものではありません。小学校の子どものデザイン学習は視覚言語という認識手段を効果ならしめる道具を肉体化しなければなりません。

造形要素の指導体系試案にもとずく、造形要素は線、

デザイン

8 分科会

デザイン学習の系統的指導はどのようにしたらよいか。 —知らせるデザインの実践による考察—

函館市立愛宕中学校 田 辺 康 夫

研究テーマの設定について

(1) 昨年度までの研究を継続し、残された研究課題をとり上げ、さらに研究のつみ上げをはかる。

(2) 子どものデザイン学習のあり方については、知らせるデザインの領域を取上げ、実践を通してその系統的指導を明らかにしたい。

研究のねらい

知らせるデザインについて具体的指導の実践からデザイン学習の系統的指導のあり方を明らかにしたい。

(1) デザイン学習における学習内容の系統性を明らかにする。

(2) 子どものデザイン能力の実態・傾向性を知る。

(3) デザイン学習についての系統的指導のあり方を究明する。

研究内容

(1) デザイン学習における学習内容の系統性について
イ 知らせるデザインについての子どもの認識はどうか。
ロ 学年のねらいをどのようにおさえるか。
ハ どのような観点から題材を選定したらよいか。(生活・能力・興味等から)
ニ 基礎学習との関連をどうおさえたらよいか。

(2) デザイン学習の系統的指導のあり方
イ 知らせるデザインの子どもの能力の傾向性はどうか。
ロ 独創的なアイデアをひきだす効果的指導のあり方
○条件づけの内容と発展段階
○導入の仕方
ハ デザイン学習における創造過程はどうあればよいか。
ニ 基礎練習はデザイン学習の中にどうくみ入れ発展させたらよいか。
ホ 材料、技術、構成方法などの発展的な指導のあり方。

留萌市の研究方向

9 分科会

留萌市立留萌小学校 橋 場 昌 三

本分科会は伝えるデザインの指導において、その系統性をおさえ、教材の面に、子供の造形能力の伸張、開発を期待し得るものでなければならない。

子供のつくる伝えるデザインの指導において、教師が基本的にふまえなければならないことをあげてみると、次の二点ではなからうか。

○訴求力の強さと発想を第一とする

○アクセチュアの使いわけを重視する

これらを連盟がまとめた「小中高学習内容の系統表」を基準にして、どのような教材を設定することにより、どのような造形能力の伸張、開発を考えていくのが望ましいのか。

教科書のとりあげている教材の系統はいずれも、学習内容において、発達段階に応じたものがとりあげられて昔社とも大差はみられないと思われるが、その教材を取扱う中で、期待される造形能力がどうなっているかは、大差不明確である。ここに、私どもの研究の意義があるわけであろう全体を通じて教師が最も警戒しなければな

らないことは、機能的なものが先行したり、押しつけになったりする指導であろう。それは、あくまでも教材そのものに対する教師の基本的な考え方、態度が問題になるのである。

そこで授業の場面では、導入、展開、まとめの中で、導入の段階を最も重視しなければならない。また展開の段階においても子供の発見、工夫が十分に認められ、賞揚されることによって、子供はより自信をもち、より深く機能的なものを求めてくるであろう。このような素地があってはじめて造形能力の伸張、開発が可能になり、子供の血となり肉となって身につくものと思う。

教師は期待する造形能力を教材の中にしかりとおさえ、しかもそれを子供に要求しないで子供の側から要求し、発見するように実践することが肝要だと思います。

留萌市の研究実践がこうした問題ととりくんでいることを報告して提案の要旨といたします。

デザイン

9分科会

デザイン指導の系統性をおさえ教材の面から
子どもの造形能力についてたしかめよう。

苫小牧市立東小学校 船着昭弘

「造形能力を高める指導はどうあればよいか」

造形能力は結果からみれば、造形的な方法で「具体的なもの」として可視的、可触的に実在するように表わす能力と考えられよう。つまり抽象された概念とか、ことばや文字の上で伝えられる知識とは異なるわけである。

創造的な活動では、いきいきとした姿が豊かな感情や旺盛な意志力の充実によって支えられるが、さらに表現や観賞の具体性を求めようとする場合にはこの「造形能力」の高まりが、必要になってくると思われる。

この造形能力を高めるための指導をどう考え、くふうしていけばよいか。

- 1 題材設定の面からどう考えていけばよいか。
 - ① 題材をどこに求めるのか。
 - ② 題材の中で条件をどうおさえていくか。
 - ③ 使用目的のある題材はどう与えるか。

7分科会

小学校低、中学年の「かざる」デザイン教育をどうするか。

常呂郡留辺蘂町立温根湯小学校 黒沢正元

- 1 小学校低、中学年のデザイン学習について
低、中学年の段階は、デザイン学習として未分化時代予備的、興味中心の学習時期であり、またこの時期は、デザインする興味を養う時期でもある。
おとなのデザインのように目的に用をもった冷いものでなく、デザインすることのみを目的とするあたたかい感情と子どもらしい感覚のあふれたものでありたい。
- 2 「かざる」デザイン学習で子どもの何を育てるか。子どもたちは、次の点について強く興味を感じている。
 - イ デザイン学習には解放感がある
 - ロ 材料がバラエティーにとんでいる
 - ハ 個性のそくばくがなく、十分に発揮しやすい
 - ニ 自由に実用に結びつけることができる
 以上の点から
 - イ いろいろな表現の経験
 - ロ いろいろな材料の経験
 - ハ 美しいものをみつける

- 2 学習の扱い方の面から
低学年、中学年、高学年という段階の中で学習の扱い方の根拠をどう考えていくか。
- 3 表現内容からはどう考えるか。
目的をもたない自由構成と、目的あるデザイン
- 4 造形要素、造形秩序をどう身につけさせていくか。
知識的にか、感覚的にか。

▽造形能力表を実践の中でみていく。

——とくにリズムの面から考えてみる——

- ・発達段階によってその発展系列がおさえられるか。
- ・リズムをどう意識化させていくか。

実践例を示す(作品をみながら)
ならんだならんだ。虫のおやこ。 はりえなど。

- ニ 美しいものをつける力
 - ホ 計画とつくることの結びつき
- 等の力が育っていき、創造性を高め、自己表現力を強め、さらに生活をよりよくする基礎となるのである。
- 3 子どもの「かざる」活動の方向づけ
子どものかざりは、他人と異なるかざりを身につけることが喜びであり、かざることによって他に自己を主張、自己を認めさせているわけである。そのかざり方は、低学年ではむやみにかざりたてているが、このような本能的な活動の盛な間は、十分満足するまでかざりたてさせ、次第にかざる目的に適合するような効果的なかざりへと整理するよう方向づけしていくべきである。
これは、子どもの要求や発達、生活(遊びも含めて)をよく見たうえで判断することが大切で、どの学年になつたからといって一律に規制すべきではない。

鑑賞

鑑賞指導の系統性をおさえ教材の
面から子どもの造形能力についてたしかめよう

10分科会

札幌市立陵北中学校 吉田広仕

現在いろいろな鑑賞資料が販売され、その利用のしかたも先生方の考え方によってまちまちだと思います。

また鑑賞の指導では結果について定着の確認が困難なことから、結果を確かめ得る表現領域のみにかたよって指導していたり、指導してはいるが美術史的な取り扱い方であったりしているのを多くみる現状ではないでしょうか。

すべての学習において、その指導法に一定のルールはないはずのものかもしれないが、ある領域のとらえ方とか、あるいは指導の目標のおさえ方などには共通のものがなければいけないのではないのでしょうか。

美術科の鑑賞領域については、その感を深くもっています。

いままでの研究大会ではあまり取り上げられなかった領域ですが、全国的にも研究のテーマとしてますし、未解決の問題の多いこの領域をこの研究大会で取り上げることによって少しでも解明できるものがあればと思いいつ、次のような柱を立てて話し合いをしてみたい。

- 1 鑑賞指導の系統性をどのようにおさえたらよいのだろうか。(子どもの発達段階の上から)
- 2 鑑賞の対象となる作品はどんな作品をどんな順序で取り上げるべきだろうか。(指導法とからませて)
- 3 学力テストにおける鑑賞問題は現状のままを認めてよいだろうか。どんな問題が望ましい形だろうか(学力テスト問題作成者への大会の名においての要望)(指導内容の本質確保のため)

鑑賞

稚内市立稚内中学校 伊藤善彬

もちろん鑑賞活動にはその作品、作者、時代等の知的理解も必要ではあるけれども、それだけではないことを反省したいものである。

また、稚内という地域的にみて文化の恵まれない所に住む子どもたちは、絵画にしても彫刻にしてもほとんどが本や新聞、教科書でしか接しえない。したがってその鑑賞の態度もおしてしるべしである。

なまの作品を鑑賞させてやりたいものである。マスコミ文化のめまぐるしい流れの中でじっくりと一つの美術作品を鑑賞する機会をつくってやりたいし、また、鑑賞態度も養いたいものである。

鑑賞指導を大別すると、指導の観点から二つに分けられると思う。一つは「表現意欲を高め、創作のよろこびを味わわせるためのいわゆる表現活動に入るための導入の段階での鑑賞」ともう一つは「日本や西洋の美術作品の有名な作品をとりあげ、そのよさを味わいたのしむ態度(鑑賞)を養うためのもの」である。

前者については表現活動とともにその鑑賞活動の成果も期待することができるが、しかし後者については多くの問題があるようである。

より効果的な鑑賞指導のための資料、設備不足、指導上ではともすれば(私もその一人であるが)美術史的、社会的に、作者、時代、作品など知的な指導に終始してしまい、鑑賞指導本来の姿から本質的にずれたものになってしまっている状態である。

部 会 (13.00~16.00)

No.	分科会	主 題	司 会 者	提 言 者
1	幼稚園 一 般	幼稚園教育における絵画造形教育の正しい指導はいかにあるべきかについて話し合ひましょう。	釧路市柏木小 小山田 武 札幌こども美 荒木 アイ 育 研 究 所	札幌いづみ幼稚園 穴倉寿満子 稚内鈴蘭幼稚園 高山 裕子
2	特 殊	特殊教育における基礎技術をどの程度まで要求したらよいのか。	稚内市富磯小 小倉 洋三 札幌美香保中 野本 醇	札幌美香保中 野本 醇
3	高 校	系統的な指導計画について話し合ひましょう	利尻高校 荒木 政行 当日参加者より選出	稚内高等学校 中村 昭夫 札幌月寒高校 中村 矢一

幼稚園一般部会

「ゆたかな、個性をつくる」

札幌こども美育研究所 荒木 アイ

釧路市柏木小学校 小山田 武

この造形教育の役割の中で、とくに幼児の造形活動は、どうあったらよいか。

人間形成の基本が作られるという、幼児期のしつけは、とりもなおさず、造形教育の基盤でもあることを確認しあひましよう。

- 1 まず美術教育の、根本的な考え方に、あやまりはなかったか。
- 2 感覚や想像力や感情が心身の発達にもなう、自然のかたちで、個性ゆたかに作り上げられることを願っているが、これが阻害され、逆の結果をまねいたりしていることはないでしょうか。

以上の反省から、この時期の造形教育の重要性を知り、なお小学生から青春期の美術活動の重要性をも理解できるところまで、進めたいものです。

- 1 幼児の心理と表現
 - ・ よく心情を作品に吐露しているか
 - ・ なにを訴え、なにを願望しているか
 - ・ 興味のない形式だけを、うつしとっているばあい、表現をじゃましているものは何か
- 2 心身の発達段階と表現
 - ・ おとなの趣味や賞讃で、幼児に要求したり、批判したりしてはいないか
 - ・ 遊びと造形活動の結びつき
 - ・ 幼児表現の特徴的傾向と、発展の経路
- 3 よい指導方法とは
 - ・ 手先きだけのしごとでなく、心、頭、手を結んだ、創造的な表現能力を練り上げるためには、おとなの、どんな働きかけが、創造されなければならないか。

幼稚園一般部会として本年度の研究主題について、討議を進めるための柱をたてる意味で、過去14回大会までに話し合われたこと、また、問題として残されている点をあげてみたい。

- 1 幼年期の子どもたちの作品は、どんなのが望ましい作品であるか、できるだけ作品を持ちよって話し合ひましょう。
- 2 幼児のイメージや感動を生き生きと表現させるためにはどのような指導と環境が望ましいか話し合ひましょう。
- 3 おくれた子、描けない子、いつも同じものを描く子等、問題をもつ子どもたちの指導助言について話し合ひましょう。
- 4 材料、用具等について話し合ひましょう。
(それぞれ、創意、工夫していることについて話し合うことが大切と思う。)
- 5 個性に必ずる指導、助言はどうするか話し合ひましょう。
- 6 幼児の絵は家庭でどのように理解されているか話し合ひましょう。

幼稚園一般

幼稚園教育における絵画造形教育の正しい指導はいかにあるべきか

稚内鈴蘭幼稚園 高山 裕子

提 言

正しい計画と指導方法について

昭和39年に示された「幼稚園教育要領」によれば絵画制作の領域における望ましい経験は次のとおりである。

- 1 のびのびと絵をかいたり、物を作ったりして表現のよろこびを味わう。
- 2 感じた事、考えた事等を工夫して表現する。
- 3 いろいろな材料や用具を使う。
- 4 美しい物に興味や関心をもつ

この望ましい経験は、一つ一つ独立し子供に教授されるものではなく、他の望ましい経験と有機的に総合的に行なわれるものである。

これは絵画制作ばかりでなく、各領域においても考えられる重要な問題点である。絵画制作というと単なる図画工作だけを意味するものではなく、特に幼稚園においては積み木遊びや、砂遊び、花壇を造る事などがふくまれる。そして私たちの周囲はすべての物に色、形、質がともなって形成されており、すべての感覚を通して認識したり、想像されたりし、手を持ってあらわされるところに造形が行なわれる。

幼稚園の指導にあたっては、次の事があげられる。

- イ 正しい感覚と力、秩序だった精神、強い意志の力、豊かな感情が育てられなければならないので過程が大切である。

ロ 造形が行なわれる動機や経過について常に新鮮なよろこびと意欲がともなうように環境と心の用意を安定感をもって用意し、また、完成のよろこびを感じさせる。

ハ 素材の扱い方や内容について経験を通じて徐々に進歩させ、自主性と集中性に矛盾のないように遊びの中で行なわれなければならない。

ニ カリキュラムが組まれる場合においても広い領域とはばのあることが望ましい。

以上のべてみたが指導と計画の方法は、幼児の実態と指導者によって決められるべきものであるから、一定の形式がいつでも、どこでもあてはまるものではない

絵画造形は知識を覚えていく事とはちがひ、体験を通じて獲得してゆくものであるから、幼児の日常生活を中心に、その中から表現するものを探し出し、幼児の視覚的经验を大切に、環境に鋭く目を向けさせてやる教師の仕事が大切である。

すなわち幼児の造形活動を生き生きとしたものにするためには教師自身がみる目、感じる心を持って幼児に接するという事、環境を整え、意欲をもちあげてやるように心がけなければならない。

絵画造形を進めていく上に、いろいろな難点もでてくるが、いずれにせよ教師間の協力が大切である。

特殊

●特殊教育の中の造形教育

札幌市立美香保中学校 野本 醇

特殊教育（精薄）での造形のあり方として6領域のうち情操領域の中で考えられるものをあげてみた。

これは造形活動以前の基本的な経験的なものであり、一応発達段階をおさえたものでもある。項目としては

- 1 絵をかく
- 2 版画をつくる
- 3 模様をつくる。デザイン
- 4 ものをつくる

となら一般的な造形教育と変わることはない分野でもある。また、一般的目標も精薄見教育に該当するが積極的精薄教育の目標として次のようなことが考えられる。

- 1 個性的な表現の特徴を生かす
- 2 心の解散と表現欲求の満足感
- 3 人としての観賞や表現力のよここび
- 4 造形生活の理解と応用

●メモ欄

1. 造形活動の目的は、表現の自由を保障し、個性を伸ばすことにある。また、社会生活の中で必要となる技能を身につけることにも役立つ。

2. 造形活動は、子どもの心を開放し、表現欲求を満たすための重要な手段である。また、社会生活の中で必要となる技能を身につけることにも役立つ。

3. 造形活動は、子どもの心を開放し、表現欲求を満たすための重要な手段である。また、社会生活の中で必要となる技能を身につけることにも役立つ。

4. 造形活動は、子どもの心を開放し、表現欲求を満たすための重要な手段である。また、社会生活の中で必要となる技能を身につけることにも役立つ。

5. 造形活動は、子どもの心を開放し、表現欲求を満たすための重要な手段である。また、社会生活の中で必要となる技能を身につけることにも役立つ。

6. 造形活動は、子どもの心を開放し、表現欲求を満たすための重要な手段である。また、社会生活の中で必要となる技能を身につけることにも役立つ。

7. 造形活動は、子どもの心を開放し、表現欲求を満たすための重要な手段である。また、社会生活の中で必要となる技能を身につけることにも役立つ。

- 5 造形活動における処理と理解
 - 6 協同による制作と社会生活の基礎
 - 7 造形活動と社会的自立の精神
- などがあげられ、具体的な展開として特殊教育の中での造形教育がなされると考え、「事物による教育」が中心である特殊教育の課程の中では重要な位置を示しているものである。

- 1 子どもらの造形能力をどのように考えたらよいのだろう
- 2 造形活動によって子どもらはどのように変化するのだろうか
- 3 特殊学級（学校）では造形活動を具体的にどのように展開しているのだろうか

1. 子どもらの造形能力をどのように考えたらよいのだろうか

2. 造形活動によって子どもらはどのように変化するのだろうか

3. 特殊学級（学校）では造形活動を具体的にどのように展開しているのだろうか

4. 子どもらの造形能力をどのように考えたらよいのだろうか

5. 造形活動によって子どもらはどのように変化するのだろうか

6. 特殊学級（学校）では造形活動を具体的にどのように展開しているのだろうか

7. 子どもらの造形能力をどのように考えたらよいのだろうか

8. 造形活動によって子どもらはどのように変化するのだろうか

9. 特殊学級（学校）では造形活動を具体的にどのように展開しているのだろうか

10. 子どもらの造形能力をどのように考えたらよいのだろうか

11. 造形活動によって子どもらはどのように変化するのだろうか

12. 特殊学級（学校）では造形活動を具体的にどのように展開しているのだろうか

13. 子どもらの造形能力をどのように考えたらよいのだろうか

14. 造形活動によって子どもらはどのように変化するのだろうか

15. 特殊学級（学校）では造形活動を具体的にどのように展開しているのだろうか

16. 子どもらの造形能力をどのように考えたらよいのだろうか

17. 造形活動によって子どもらはどのように変化するのだろうか

18. 特殊学級（学校）では造形活動を具体的にどのように展開しているのだろうか

19. 子どもらの造形能力をどのように考えたらよいのだろうか

20. 造形活動によって子どもらはどのように変化するのだろうか

21. 特殊学級（学校）では造形活動を具体的にどのように展開しているのだろうか

22. 子どもらの造形能力をどのように考えたらよいのだろうか

23. 造形活動によって子どもらはどのように変化するのだろうか

24. 特殊学級（学校）では造形活動を具体的にどのように展開しているのだろうか

25. 子どもらの造形能力をどのように考えたらよいのだろうか

26. 造形活動によって子どもらはどのように変化するのだろうか

27. 特殊学級（学校）では造形活動を具体的にどのように展開しているのだろうか

28. 子どもらの造形能力をどのように考えたらよいのだろうか

29. 造形活動によって子どもらはどのように変化するのだろうか

30. 特殊学級（学校）では造形活動を具体的にどのように展開しているのだろうか

高校部会

系統的な指導計画について話し合いましょう。

稚内高等学校 中村昭夫

高等学校美術工芸の指導計画を作成するにあたって一応指導要領には指導すべき事柄が示されているが、きわめて抽象的であり、巾広い解釈もでき、また、地域の実情と合わせていくのに困難な点がないとはいわれないし入学生徒も地域的に散在して中学の学習過程も一様でないと考えられる。それゆえ、地域の小、中学校の造形教育の実態をつかみ、その関連として高校美術工芸も考えなくては内容的にも技術的にも断層ができ生徒の発達過程の一貫した指導を見失しかねないので、系統的指導計画について話し合うことを提案致します。

問題点

- 1 中学校で受けた指導の単なる反復と解釈される指導内容でなく、彼等の知的要求も満足させるにはどうしたらよいか。
- 2 地域の独自性や特色ある題材のとり上げ方が小、中学校では如何になっているか、また、それを高校美術工芸の中にどのように計画し、効果的に利用したらよいか。

高校美術教育の実践と対策

札幌月寒高等学校 中村 矢一

11回大会（滝川）

・教科課程の改訂に伴ない芸術科の位置づけが問題になる。

12回大会（名寄）

- ・新教科課程が現場でどのように計画されたか
- ・芸術科の位置づけを強力にする為、道教委に主事をおくように要望
- ・高校美術課程設置運動を行なう

13回大会（余市）

- ・高校美術課程設置運動経過報告
- ・実践研究としてデザインについて研究
- ・生徒作品発表について

14回大会（札幌）

- ・組織拡大はどのようにしたらよいか
- ・芸術科の位置づけについて東京都内高校の報告
- ・全国高校美術工芸研究会に加盟
- ・研究授業美術・工芸の実践発表

以上の記録にあるように高校部会も成長して今日に至る。数少い参加者であるが北海道高校美術振興のために熱心に討議されて来たのである。40年度は教育行政においていろいろ計画されている折、私たち現場で美術教育を実践している場合、いままですら問題点が多くなることを覚悟しなければなりません。

また、幼、小、中、高と連盟の中にあって連盟試案の能力系統表のたしかめが必要になっています。

高校においても今一度反省し、こどもの未来に希望と勇気を持たせるためにお互いに実践研究したいものである。

提 言

- ・高校美術工芸の系統性がどのようになされているか（幼、小、中との関連において）
- ・実践研究はどのように解決しているか（教科書、副読本等）
- ・実践記録の発表
- ・美術教育振興について（生徒作品の発表、展覧会等）
- ・美術教師集団のあり方（研究発表の交換、参加討議等）

祝 全道造形教育研究大会

教材・教具の

誠文社

- | | |
|-------|---------|
| 札幌地区 | 北海教材社 |
| 函館地区 | グリーンクロス |
| 岩見沢地区 | 遠藤教材社 |
| 深川地区 | 赤川文進堂 |
| 旭川地区 | 山田至幸商店 |
| 稚内地区 | 道北教材商事 |
| 名寄地区 | 加藤商会 |

祝 全道造形大会

テスト・ドリルブックは

全国一採用率の高い

同人社へ

北海道代理店

旭川市四条三丁目 高橋兼雄商店
稚内市開運四 道北教材商事

印刷・事務用品

教材・和洋紙の店

中央タイプ工芸社

稚内市山下通6

祝 第15回全道造形教育稚内大会

第15回 たくぎん こども美術展 (自由画, デザイン)

会期 9月7日～12日
 会場 札幌市 ㊟
 地方展 札幌会場終了後、道内主要都市を巡回
 その後、学校貸出に応じます。希望校は札幌拓銀
 本店業務課へお申込みください。

北海道の開拓とともに
 みなさまの



北海道拓殖銀行

北海道の生んだ 洋画界の鬼才

三岸好太郎 回顧展開催中

会場 札幌市南2西3 北海道拓殖銀行南支店 新社屋ビル
 会期 7月16日～8月15日 (午前9時～午後5時)
 出品 鎌倉近代美術館にて展覧の約100点
 入場料 一般100円 学生50円 (団体扱40円)
 主催 北海道新聞社・六華同窓会 (旧札一中)
 後援 道教委・札幌市教委・北海道造形教育連盟
 北海道美術協会・全道美術協会
 北海道美術館建設期成会

図工教育・美術教育をより高めるために!

- 教材教具
- ☆ デザイン・色彩・彫塑
立体構成・版画等
 - ☆ 掛図・スライド・教具類
 - ☆ 画用紙・クレヨン
絵の具セット

中学校のデザイン
 1, 2, 3年用 B5 40頁 ¥70
 日本美術・西洋美術
 各全1冊 A5変型40頁 原色刷 ¥80
 美術の世界(日本)・(西洋)
 各全1冊 A5変型40頁 多色刷 ¥80
 美術の研究
 全1冊 B5判 112頁 ¥120

教育現場とともに歩む

北海教育評論社

札幌市北1西2 T24-9141

絵画材料・造形教材

(道内クサカベ油絵具販売店)

中川文潮堂	滝川市大町	北野本店	赤平市泉町本通り	久住書店	札幌琴似町本通
友堂	名寄市西2の6	金星ストア	富良野町日の出町	金才堂書店	千歳市錦町1丁目
小柳中央堂	北見市1条西1	浜田商事	留萌市錦町1丁目	近川商店	千歳市幸町3丁目
鶴嶋井商店	網走郡小清水	船越文具店	室蘭市浜町	石井商店	小樽市花園町
有田支店	帯広市西2南10	江川商店	岩内町栄町	乾書店	中標津町
小山画材店	函館市松風町	中原商店	苫小牧市大町	あさかや商店	滝の上旭町
今野商店	旭川市1条6	中村文具店	静内町御幸町	鶴屋デパート	釧路市北大通
中央堂	旭川市3条7	梶本文具店	岩見沢市5の3件の店	一番館	根室市線町
久山商店	美幌町大通り北3	谷口商店	三笠市唐松東住吉	フジャ書店	網走市南4東1
末武商店	下川町大通元町	旭屋商店	遠軽町大町	洞口書店	伊達町元町
松本文明堂	岩見沢市宮下町	いわた書店	砂川市1条南4	高田商店	妹背牛町大通り
平三美堂	美幌市南美唄	野田額縁店	札幌狸小路2		
本間商店	夕張市大夕張鹿島	大丸藤井	札幌南1西3		

クサカベ油絵具北海道代理店

札幌 大丸藤井株式会社

祝 15回造形教育全道大会

観光土産

稚内貴石 (瑪瑙 原石)
(ジャスパー)

1袋 100エン

※採石地 稚内市東浦海岸 (オホーツク海岸)

稚内駅バスターミナル前……

道北教材商事

稚内市開運通り4丁目
 電話 3826

* 水彩えのぐの決定版!

へんてるえのぐ

F 12

■ 事務筆記・宛名書・スケッチ等に最適!!



赤 黒 青

へんてる サインペン



へんてる本舗

大日本文具株式会社札幌支店 T 24-1450

らくやき諸原材料
造形教材教具専門

最新式オイルバーナー
倒焰式楽陶焼窯施工専門

北陶社

工場 札幌市琴似町山の手3条1丁目
T~⑥1-8056

事務所 札幌市北6条西1丁目北山ビル
T~⑦1-6539

※来札の節は気軽にお立寄り下さい。

◆ 営業品目

- ・各種粘土製造販売
- ・額皿製造販売
- ・らくやき指導
- ・陶器窯の築造
- ・版画用品, 用具
- ・画用紙, 色紙類各種
- ・その他一般教材

ゆたかな造形感覚を伸すためには
さくらのえのぐがいちばんです!

さくらマット水彩



クレパス本舗 株式会社 桜商会

学校工作用具の専門店

営業品目

学校工作用具・技術・家庭科用具 機械ト工具・刃物類・彫刻道具
機械大工道具・各メーカー電動工具 各国産砥石・鋸力屋・左官道具

三条教材工具製作株式会社・北海道総発売元

株式
会社



鈴木屋商店

札幌市南3条西8丁目 TEL ②5264・②9641
諸官庁, 各学校, 鉄道, 自衛隊, 商事部
札幌市北8条西3丁目 TEL ⑦10274・⑦1389

優雅な美の表現



ギターペイント

ギターパス



マジックインキ

寺西化学工業株式会社
東京・大阪・名古屋・札幌

➡ あらゆる教材教具のPIONEER

株式会社 誠文社



□教材□教具□出版□保育教材⇨

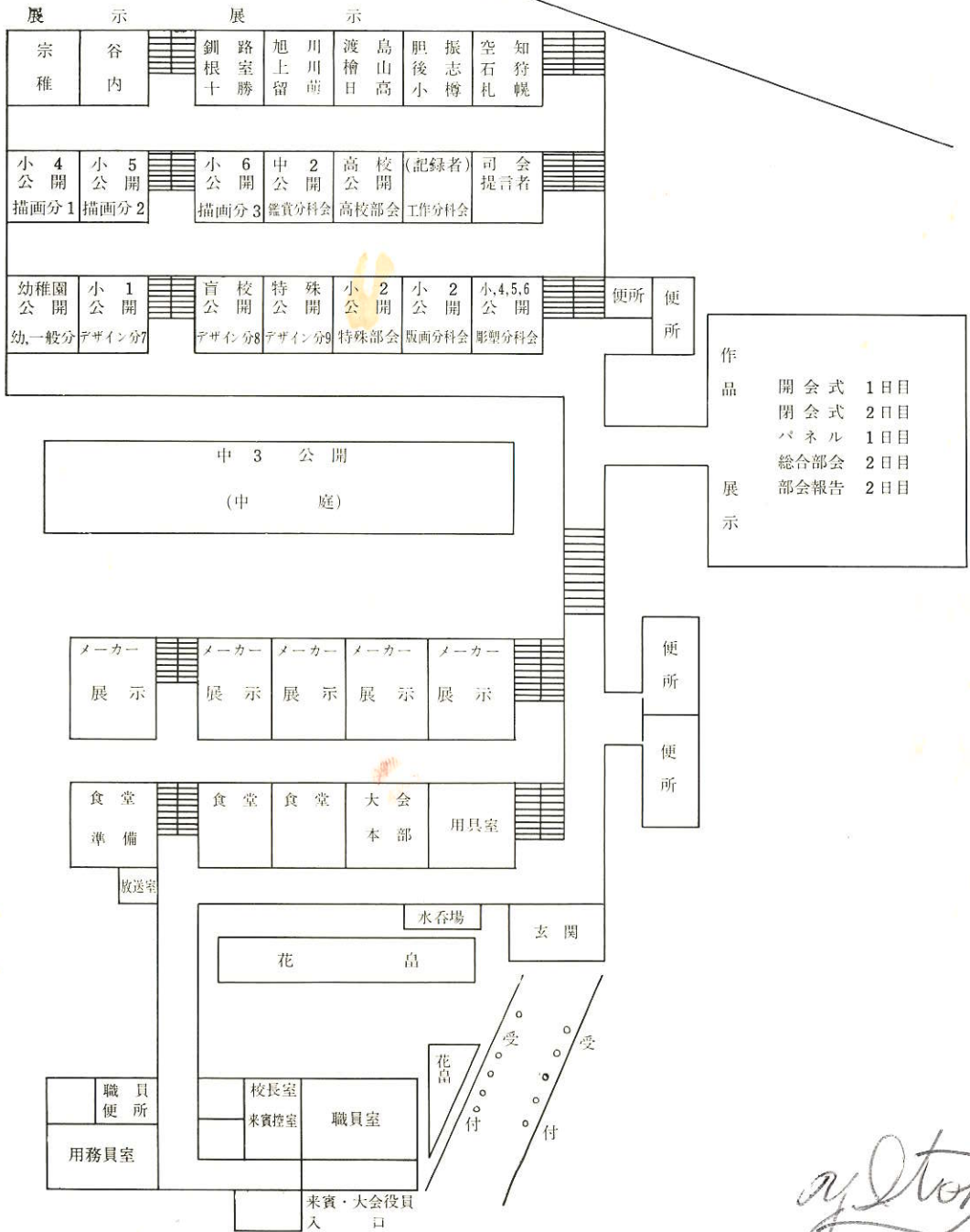


株式会社 誠文社 大阪市東区淡路町5丁目5番地
電話(231)1222・5267・5725・6869

会場図

昭和40, 7, 28, 29

裏山より市内および声間, 宗谷, 大岬展望



ay. Itoh